

調査結果の分析

第1章 県民生活の満足度

1 質問項目と分析方法

(1) 質問項目の内容

問1 あなたは、お住まいや周辺の環境・日々の暮らしの中で、次のような項目1つ1つについて、どの程度満足していますか。

お答えは、「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5つから選んでください。(○はそれぞれ1つ)

(あなたにあてはまらない場合は、「わからない」を選んでください。)

満足度調査における各項目は、県民の多様な生活面について、現在どの程度満足しているのかを量るとともに、年次経過に伴う動向や傾向をも把握する目的で設定されたものである。このため、質問項目は変更しないことが原則となり、今回の調査においても、質問領域・質問項目は原則として前回と同じとした。なお、今回の質問領域・質問項目は図表1-1-1に示すとおりである。

質問方法については、前回までと同様である。すなわち、「お住まいや周辺の環境・日々の暮らしの中で、次のような項目1つ1つについて、どの程度満足していますか」と質問し、次いで、各質問項目について「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階の評価で回答する方法である。

なお、以下、各質問項目の記述に際しては、図表1-1-1の左欄の略称名を使用することとする。たとえば、健康領域の「日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について」の質問項目は、単に「日常医療」と記述する。

図表 1-1-1 満足度質問項目一覧

領域	項目(略称名)	質問内容
健康	1 日常医療	日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について
	2 救急医療	休日や夜間などの救急医療について
	3 検診・相談	市役所、町村役場が行う生活習慣病検診や医療相談について
	4 健康全般	あなたの健康を守るための環境全般について
安全	5 交通安全	毎日の生活の中での交通の安全性について
	6 防犯・防火	あなたがお住まいの地域での防犯体制や防火活動について
	7 自然災害	地震や大雨による浸水・がけくずれなど自然災害からの安全性について
	8 安全全般	あなたの生活全般の安全性について

居住環境	9 自然環境	山や川などの自然環境について
	10 大気汚染等	大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの状況について
	11 公園広場等	公園、広場、遊び場などについて
	12 ごみ・生活排水	あなたの地域でのごみや生活排水の処理について
	13 住 宅	現在お住まいの住宅の敷地や建物の広さについて
	14 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通の利便性について
	15 道 路	あなたの地域の道路の整備状況について
	16 買 い 物	日常の買い物の利便性について
	17 居住環境全般	あなたの居住環境全般について
労働	18 就職の機会	自分の望む仕事に就職、転職する機会や職業紹介について
	19 労働条件	労働時間や休日、厚生、仕事の安全衛生などについて
	20 仕事のやりがい	今の仕事のやりがいについて
	21 労働全般	あなたの今のお仕事全般について
所得・消費	22 所 得	あなたのご家庭の所得について
	23 資 産	あなたのご家庭の資産（預貯金、株式、不動産など）について
	24 消 費	商品（サービス）の種類や豊富さについて
	25 物 価	最近の物価について
	26 所得・消費全般	あなたのご家庭の暮らしむき全般について
教育・文化	27 幼稚園・保育所	幼稚園、保育所などの施設について
	28 小中高の教育	小・中学校、高等学校などの教育について
	29 高等教育の機会	県内で大学、短期大学、専門学校などの教育を受ける機会について
	30 家庭教育	しつけなどの各家庭の教育について
	31 生涯学習	趣味の会、教養講座などの文化活動に参加したり、すぐれた芸術文化に接したりする機会について
	32 文化施設	図書館、文化ホール、美術館、博物館などの施設について
	33 文化財・伝統継承	史跡、文化財、郷土芸能、まつりなどの保存や伝承について
	34 教育・文化全般	あなたや家族が日ごろ接している教育や文化全般について
余暇	35 自由時間	あなたが自由にできる時間について
	36 余暇施設	スポーツ、レクリエーションなどのための身近な施設やそれらの利用のしやすさについて
	37 娯 楽	県内の映画館、劇場、遊園地などでの娯楽・レジャーについて
	38 余暇情報	催し物・イベントなどの余暇情報を得る機会について
	39 自然と親しむ機会	ハイキングなど自然と親しむ機会について
	40 余暇全般	あなたの休日や余暇の過ごし方全般について
福祉・連帯	41 地域とのつながり	近所づきあいや地域で行なわれる行事への住民の参加について
	42 福祉施策	お年寄り、子ども、障害者などに対する国や県の施策について
	43 福祉・連帯全般	あなたがお住まいの地域での人のつながりや福祉サービス全般について
44	生活全般	あなたの生活全般について

(2) 満足度の得点化

満足度の分析にあたっては、「満足」から「不満」に至る5段階の構成比率による分析を行うとともに、質問項目相互間、地域や年齢・性別などの属性間の比較を行いやすくするため、得点化方式を用いることとする。すなわち、各質問項目について、各回答の評価段階ごとに一定の得点を与え、県全体、地域、年齢・性別などの属性間における比較検討のための集計グループごとの平均点をそれぞれの満足度得点として分析を進める。各評価段階の得点及び満足度得点の算式は、時系列分析も考慮し、図表 1-1-2 に示すとおり、過去の調査と同様とする。

図表 1-1-2 得点と算式

段階	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
得点	+ 200	+ 100	0	- 100	- 200

$$\text{満足度得点算式} = \{200 \times A + 100 \times B + 0 \times C + (-100) \times D + (-200) \times E\} / m$$

A: 「満足」と答えた回答者数

B: 「どちらかといえば満足」と答えた回答者数

C: 「どちらともいえない」と答えた回答者数

D: 「どちらかといえば不満」と答えた回答者数

E: 「不満」と答えた回答者数

m: 「わからない」または「不明」を除いた回答者数 (A+B+C+D+E)

したがって、仮にこの得点のプラス値が大きければ大きいほど強い満足度であり、逆に、マイナス値で、その絶対値が大きければ大きいほど強い不満足度であることを示唆する。

また、「満足」と「どちらかといえば満足」の両者をつにしたもの「満足層」とし、「どちらかといえば不満」と「不満」の両者をつにしたもの「不満層」とすれば、この満足層・不満層の大小によっても、ある程度、満足傾向あるいは不満傾向の状況が推測可能と考えられる。

なお、この満足度得点を満足度水準の指標として用いるにあたっては、次のアからエまでの前提条件を踏まえて理解する必要がある。

ア 満足度の質は、質問項目ごとに異なるものであるが、これらを共通の尺度で測定できるものとの前提に立ち、満足度得点によって質問項目間の比較ができるものとしている。

イ 「満足」から「不満」までの5段階評価の数量的間隔、たとえば、「満足」・「どちらかといえば満足」の差と、「どちらかといえば満足」・「どちらともいえない」の差は、質的に見て必ずしも等しいとは限らないが、この差は等しいものとしている。

ウ 満足度得点は、得点の平均値であり、たとえこれが等しくても、「満足」から「不満」までの度数分布の型は、現実的には必ずしも一様ではないが、ここでは度数分布の型は一様であるものとしている。

エ 「わからない」または「不明」の回答者も、「満足」から「不満」までの5段階のうち、いずれかを選択した回答者と同じ回答分布であるものとしている。

(3) 満足度得点の標本誤差

この調査の結果は、県民全体の中から一部の県民を無作為に選び出し、この県民の回答を集計したものであり、いわゆる標本調査の結果である。したがって、この結果は、そのまま県民全体や地域全体、つまり母集団の意向、意識、意見を反映したものと考えられる。しかし、標本の満足度得点をもとに、母集団についての意向、意識、意見を把握しようとする場合には、標本誤差を考慮する必要がある。言い換えれば、標本調査は、調査の対象となった一部の人達の回答結果から母集団の状態を、ある程度の幅をもって推測する方法であり、今回の調査結果の検討・分析に使用している満足度得点は、標本となっている個々人の回答者の回答を得点に置き換え、全回答者の得点を合計し、算術平均として計算した平均得点である。統計学上、推測しようとする母集団の満足度得点は、標本の満足度得点を中心に上下に一定の範囲まで広げた幅の中にあるものと考えられる。通常、この幅は「標本誤差」と呼ばれているが、信頼度を95%とした場合、その誤差の大きさは、 $[\text{標本誤差} = \text{標準偏差} \times 2 \div \text{標本数の平方根}]$ の算式によって計算される。

いま、ある地域の満足度得点と他の地域の満足度得点とを比較し、どちらの地域がより満足傾向にあるのか、あるいは同程度であるのかを判断する場合、両者の得点差が問題となる。統計的には、この判断は、比較しようとする項目間、地域間、属性間のすべてについて、上記の算式に従って、これを計算する必要があり、また、この得点差は、標準偏差と標本数の大きさによって決まり、標準偏差が小さく、標本数が大きい場合には、わずかの得点差でも「差(有意差)」があるものと判断される。しかし、本調査における標本数、得点値からすれば、概ね、県全体での各項目間、県全体と各地域間の比較については15～20点の差、地域間・各地域間の各項目の比較及び属性間・各属性間での各項目の比較については20～25点の差が、有意差の判断の目安になるう。

2 満足度の概観

県全体における満足度調査の結果について、「生活全般」、「領域全般」、「個別項目」の3つに分けて概観する。なお、図表1-2-1は、過去3回の調査結果と今回の調査結果を比較したものである。

図表1-2-1 質問項目別満足度（全県）

(単位：%)

領域	項目	年度	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			■満足	■どちらともいえない	■不満	■どちらかといえば満足	■どちらかといえば不満	■わからない				
健康	日常医療	H20	14.8	37.6	26.2	11.1	6.4	3.9	52.4	17.5	34.9	
		H24	15.4	38.9	25.1	11.2	5.6	3.7	54.3	16.8	37.5	
		H29	18.7	40.1	23.9	8.6	5.0	3.7	58.8	13.6	45.2	
		R3	22.3	40.8	21.9	7.5	3.1	4.3	63.1	10.6	52.5	
	救急医療	H20	5.1	17.5	29.2	17.1	14.5	16.6	22.6	31.6		9.0
		H24	6.0	20.5	31.5	15.6	11.1	15.3	26.5	26.7		0.2
		H29	8.6	22.5	28.5	15.5	9.4	15.5	31.1	24.9	6.2	
		R3	10.5	23.2	29.5	12.1	6.7	18.1	33.7	18.8	14.9	
	検診・相談	H20	8.2	20.1	37.6	8.4	3.8	21.9	28.3	12.2	16.1	
		H24	8.6	24.4	38.5	6.9	3.0	18.6	33.0	9.9	23.1	
		H29	8.4	26.2	37.7	5.3	2.4	20.0	34.6	7.7	26.9	
		R3	10.8	23.2	34.9	4.3	2.2	24.5	34.0	6.5	27.5	
	健康全般	H20	6.5	26.3	39.6	12.5	5.1	10.1	32.8	17.6	15.2	
		H24	7.5	29.6	39.6	8.6	4.3	10.5	37.1	12.9	24.2	
		H29	9.7	33.3	37.5	7.3	3.1	9.1	43.0	10.4	32.6	
		R3	13.2	33.0	34.8	5.9	2.3	10.9	46.2	8.2	38.0	
安全	交通安全	H20	7.0	25.0	34.4	18.3	11.9	3.3	32.0	30.2	1.8	
		H24	7.1	29.3	32.4	18.4	9.6	3.3	36.4	28.0	8.4	
		H29	8.9	30.4	33.6	16.6	8.1	2.4	39.3	24.7	14.6	
		R3	9.9	31.3	30.7	16.7	7.2	4.2	41.2	23.9	17.3	
	防犯・防火	H20	7.0	27.1	40.6	10.7	4.7	10.0	34.1	15.4	18.7	
		H24	6.5	31.8	39.7	10.4	4.1	7.5	38.3	14.5	23.8	
		H29	8.6	32.8	36.5	8.6	3.6	9.9	41.4	12.2	29.2	
		R3	10.6	32.3	36.6	6.9	3.3	10.4	42.9	10.2	32.7	
	自然災害	H20	7.1	21.5	36.5	14.1	9.5	11.3	28.6	23.6	5.0	
		H24	7.4	25.7	37.4	12.0	8.2	9.3	33.1	20.2	12.9	
		H29	7.7	25.5	37.5	12.8	6.2	10.3	33.2	19.0	14.2	
		R3	9.3	25.2	36.5	11.9	6.5	10.6	34.5	18.4	16.1	
	安全全般	H20	5.6	30.4	42.1	12.0	4.3	5.7	36.0	16.3	19.7	
		H24	6.6	34.0	41.8	9.2	3.5	4.9	40.6	12.7	27.9	
		H29	8.9	37.4	37.3	8.0	2.4	6.0	46.3	10.4	35.9	
		R3	11.0	38.6	35.3	7.1	2.3	5.7	49.6	9.4	40.2	

領域	項目	満足度							満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度	■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満 ■ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ わからない									
居住環境	自然環境	H20	18.1	39.9	22.9	9.3	5.2	4.7	58.0	14.5	43.5	
		H24	21.2	41.0	21.9	7.1	4.0	4.8	62.2	11.1	51.1	
		H29	24.2	39.0	23.5	5.6	4.5	5.1	63.2	8.2	55.0	
		R3	25.4	38.4	21.5	5.7	3.0	6.0	63.8	8.7	55.1	
	大気汚染等	H20	9.3	33.2	25.9	16.6	11.7	3.3	42.5	28.3	14.2	
		H24	11.4	34.6	26.9	14.0	9.6	3.4	46.0	23.6	22.4	
		H29	14.4	37.3	25.9	12.0	6.5	3.9	51.7	18.5	33.2	
		R3	15.7	36.1	26.7	10.4	5.9	5.2	51.8	16.3	35.5	
	公園広場等	H20	7.2	25.3	29.5	19.6	11.7	6.6	32.5	31.3	1.2	
		H24	9.0	24.2	31.4	18.1	11.6	5.7	33.2	29.7	3.5	
		H29	10.8	27.0	30.4	15.6	9.5	6.7	37.8	25.1	12.7	
		R3	10.1	27.5	29.3	14.9	9.8	8.4	37.6	24.7	12.9	
	ごみ・生活排水	H20	12.7	34.3	28.1	12.5	8.0	4.3	47.0	20.5	26.5	
		H24	14.5	36.6	28.3	11.6	5.8	3.2	51.1	17.4	33.7	
		H29	17.0	39.2	24.0	9.7	5.0	5.1	56.2	14.7	41.5	
		R3	19.3	37.4	23.2	9.5	5.4	5.2	56.7	14.9	41.8	
	住宅	H20	26.0	36.9	18.0	10.7	7.0	1.6	62.9	17.7	45.2	
		H24	25.3	38.3	21.3	9.9	4.3	1.0	63.6	14.2	49.4	
		H29	29.7	37.2	19.0	8.5	3.9	1.7	66.9	12.4	54.5	
		R3	31.8	35.9	17.7	9.5	3.2	1.8	67.7	12.7	55.0	
	公共交通機関	H20	5.7	13.1	18.1	22.3	36.8	3.8	18.8	59.1	40.3	
		H24	5.7	15.5	21.1	23.0	30.2	4.4	21.2	53.2	32.0	
		H29	4.9	13.3	20.9	23.8	32.6	4.5	18.2	56.4	38.2	
		R3	7.0	13.3	22.9	23.7	26.7	6.4	20.3	50.4	30.1	
道路	H20	7.6	28.1	26.5	18.8	17.0	2.1	35.7	35.8	0.1		
	H24	6.8	28.1	27.4	20.6	15.5	1.6	34.9	36.1	1.2		
	H29	7.7	28.8	27.5	20.6	12.8	2.6	36.5	33.4	3.1		
	R3	9.3	28.9	26.6	19.8	11.6	3.8	38.2	31.4	6.8		
買い物	H20	13.8	34.3	20.7	16.7	13.3	1.2	48.1	30.0	18.1		
	H24	13.1	36.4	21.2	15.2	13.3	0.9	49.5	28.5	21.0		
	H29	14.7	35.4	20.3	16.4	11.6	1.6	50.1	28.0	22.1		
	R3	18.9	35.6	19.6	14.0	9.8	2.0	54.5	23.8	30.7		
居住環境全般	H20	10.4	40.2	31.6	11.9	4.4	1.5	50.6	16.3	34.3		
	H24	10.9	41.2	33.1	8.9	4.3	1.6	52.1	13.2	38.9		
	H29	13.2	43.2	29.1	9.0	3.7	1.8	56.4	12.7	43.7		
	R3	16.1	44.4	25.9	7.9	2.6	3.0	60.5	10.5	50.0		
労働	就職の機会	H20	4.6	14.4	28.1	14.4	11.1	27.4	19.0	25.5	6.5	
		H24	4.6	14.1	32.0	13.0	9.7	26.5	18.7	22.7	4.0	
		H29	6.8	16.1	32.2	11.8	8.5	24.6	22.9	20.3	2.6	
		R3	8.4	17.2	29.3	9.1	6.0	30.1	25.6	15.1	10.5	
	労働条件	H20	4.7	21.8	28.4	13.9	10.3	20.8	26.5	24.2	2.3	
		H24	6.3	18.2	31.9	12.8	9.7	21.0	24.5	22.5	2.0	
		H29	6.7	21.8	30.4	11.2	9.3	20.6	28.5	20.5	8.0	
		R3	11.0	22.0	25.6	9.8	7.0	24.5	33.0	16.8	16.2	
	仕事のやりがい	H20	11.0	30.7	25.1	8.2	5.8	19.1	41.7	14.0	27.7	
		H24	11.7	29.3	27.2	7.0	6.0	18.7	41.0	13.0	28.0	
		H29	12.3	29.0	26.5	7.4	5.3	19.5	41.3	12.7	28.6	
		R3	15.2	27.7	24.9	5.8	4.0	22.5	42.9	9.8	33.1	
	労働全般	H20	8.8	30.4	26.0	9.8	6.3	18.8	39.2	16.1	23.1	
		H24	9.9	28.7	28.9	8.3	6.3	17.9	38.6	14.6	24.0	
		H29	10.8	29.0	26.8	8.0	6.2	19.2	39.8	14.2	25.6	
		R3	13.3	28.0	24.5	7.2	4.3	22.6	41.3	11.5	29.8	

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		■満足 ■どちらともいえない ■不満 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■わからない									
		年度									
所得・消費	所得	H20	4.0	20.0	29.0	21.0	21.1	4.9	24.0	42.1	18.1
		H24	3.9	15.9	36.0	19.1	19.4	5.7	19.8	38.5	18.7
		H29	6.7	20.7	34.1	18.3	14.8	5.4	27.4	33.1	5.7
		R3	8.4	21.6	32.6	18.8	11.0	7.7	30.0	29.8	0.2
	資産	H20	2.7	13.6	34.2	18.7	20.2	10.5	16.3	38.9	22.6
		H24	3.0	13.1	37.9	19.1	17.2	9.7	16.1	36.3	20.2
		H29	5.2	15.7	38.5	16.6	14.0	10.0	20.9	30.6	9.7
		R3	6.3	16.8	36.6	17.6	11.5	11.2	23.1	29.1	6.0
	消費	H20	4.5	23.8	37.9	16.1	8.9	8.9	28.3	25.0	3.3
		H24	4.3	23.7	41.1	14.9	6.4	9.7	28.0	21.3	6.7
		H29	5.9	22.1	41.4	13.4	7.3	9.9	28.0	20.7	7.3
		R3	7.4	22.4	38.2	14.2	5.2	12.6	29.8	19.4	10.4
	物価	H20	1.6	8.3	23.1	64.0		2.7	2.0	87.1	85.1
		H24	1.6	8.5	33.3	26.5	26.6	3.5	10.1	53.1	43.0
		H29	2.4	8.4	34.2	28.3	22.3	4.4	10.8	50.6	39.8
		R3	2.6	8.6	32.3	27.2	22.6	6.6	11.2	49.8	38.6
	所得・消費全般	H20	3.3	24.8	35.1	18.9	14.7	3.2	28.1	33.6	5.5
		H24	4.7	24.3	39.8	17.3	10.6	3.4	29.0	27.9	1.1
		H29	7.4	29.7	38.7	13.9	7.9	2.4	37.1	21.8	15.3
		R3	9.4	31.8	36.8	12.1	5.6	4.4	41.2	17.7	23.5
教育・文化	幼稚園・保育所	H20	6.4	26.8	27.3	6.5	4.2	28.8	33.2	10.7	22.5
		H24	7.4	23.3	30.7	6.7	4.7	27.1	30.7	11.4	19.3
		H29	7.7	24.8	29.6	7.0	5.0	25.9	32.5	12.0	20.5
		R3	8.4	21.5	27.2	4.7	2.8	35.4	29.9	7.5	22.4
	小中の教育	H20	4.4	19.9	29.1	13.3	8.0	25.2	24.3	21.3	3.0
		H24	4.8	18.9	30.7	11.8	8.3	25.4	23.7	20.1	3.6
		H29	6.3	22.9	33.3	9.4	4.6	23.5	29.2	14.0	15.2
		R3	6.9	20.3	28.9	6.4	3.8	33.7	27.2	10.2	17.0
	高等教育の機会	H20	2.2	11.1	28.8	18.9	10.2	28.7	13.3	29.1	15.8
		H24	2.5	10.2	33.2	16.6	9.6	27.9	12.7	26.2	13.5
		H29	2.8	13.5	31.8	18.1	8.7	25.1	16.3	26.8	10.5
		R3	5.0	10.8	31.5	11.6	7.0	34.1	15.8	18.6	2.8
	家庭教育	H20	1.7	12.3	34.6	20.4	14.8	16.2	14.0	35.2	21.2
		H24	2.6	11.1	39.2	16.4	11.8	18.9	13.7	28.2	14.5
		H29	3.6	15.3	41.7	13.1	7.1	19.2	18.9	20.2	1.3
		R3	5.0	16.7	38.3	8.3	3.7	28.1	21.7	12.0	9.7
	生涯学習	H20	2.3	17.7	39.0	11.4	6.5	23.1	20.0	17.9	2.1
		H24	2.5	14.9	43.3	11.3	4.6	23.5	17.4	15.9	1.5
		H29	3.4	16.0	42.9	9.7	4.4	23.6	19.4	14.1	5.3
		R3	4.3	13.1	37.0	10.4	5.0	30.2	17.4	15.4	2.0
文化施設	H20	6.6	29.8	31.0	11.6	7.7	13.3	36.4	19.3	17.1	
	H24	7.2	31.0	31.4	11.0	5.5	13.8	38.2	16.5	21.7	
	H29	7.4	32.9	31.5	10.1	5.1	13.0	40.3	15.2	25.1	
	R3	8.7	29.7	30.6	9.1	4.3	17.6	38.4	13.4	25.0	
文化財・伝統継承	H20	4.4	22.8	38.8	10.0	3.6	20.3	27.2	13.6	13.6	
	H24	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4	
	H29	5.1	27.2	40.0	7.6	2.2	17.9	32.3	9.8	22.5	
	R3	6.4	20.6	39.6	7.4	2.6	23.3	27.0	10.0	17.0	
教育・文化全般	H20	2.6	20.3	47.7	9.4	3.2	17.0	22.9	12.6	10.3	
	H24	3.4	21.2	48.2	7.9	2.5	16.8	24.6	10.4	14.2	
	H29	3.8	24.2	46.6	5.9	2.3	17.2	28.0	8.2	19.8	
	R3	5.0	23.9	40.8	6.2	2.3	21.8	28.9	8.5	20.4	

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		■満足 ■どちらともいえない ■不満 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■わからない									
		年度									
余暇	自由時間	H20	15.3	40.8	21.0	11.7	9.4	1.7	56.1	21.1	35.0
		H24	14.4	35.6	26.7	12.9	8.6	1.8	50.0	21.5	28.5
		H29	16.6	36.6	22.4	13.4	9.1	1.9	53.2	22.5	30.7
		R3	21.5	36.6	22.0	10.7	6.2	3.1	58.1	16.9	41.2
	余暇施設	H20	4.3	19.4	31.2	19.2	10.9	15.0	23.7	30.1	6.4
		H24	4.8	19.5	33.6	17.6	9.8	14.8	24.3	27.4	3.1
		H29	5.4	19.9	33.8	16.3	8.9	15.7	25.3	25.2	0.1
		R3	6.0	18.9	32.2	14.5	8.4	19.9	24.9	22.9	2.0
	娯楽	H20	3.7	18.1	31.0	19.4	15.9	11.8	21.8	35.3	13.5
		H24	2.6	18.5	31.0	20.2	15.0	12.7	21.1	35.2	14.1
		H29	4.1	16.4	27.0	23.3	18.4	10.8	20.5	41.7	21.2
		R3	4.5	15.9	28.1	20.8	13.5	17.2	20.4	34.3	13.9
	余暇情報	H20	2.3	19.1	39.5	17.4	9.2	12.5	21.4	26.6	5.2
		H24	2.7	18.9	41.9	15.7	8.3	12.5	21.6	24.0	2.4
		H29	3.8	18.3	39.9	16.4	8.8	12.8	22.1	25.2	3.1
		R3	3.9	14.4	39.5	16.3	7.6	18.3	18.3	23.9	5.6
	自然と親しむ機会	H20	7.1	28.1	37.9	7.9	2.4	16.7	35.2	10.3	24.9
		H24	6.1	27.2	40.6	6.8	2.9	16.4	33.3	9.7	23.6
		H29	8.5	25.8	39.5	6.2	2.0	18.0	34.3	8.2	26.1
		R3	10.6	26.4	35.7	4.9	2.8	19.4	37.0	7.7	29.3
余暇全般	H20	9.4	38.8	34.4	9.9	4.3	3.2	48.2	14.2	34.0	
	H24	8.8	36.5	36.6	10.2	3.6	4.4	45.3	13.8	31.5	
	H29	11.0	37.1	34.6	9.4	4.4	3.5	48.1	13.8	34.3	
	R3	14.1	38.1	30.8	8.9	3.3	4.8	52.2	12.2	40.0	
福祉・連帯	地域とのつながり	H20	7.4	33.5	35.5	9.3	5.4	9.1	40.9	14.7	26.2
		H24	8.0	29.6	41.1	9.0	3.7	8.5	37.6	12.7	24.9
		H29	9.4	28.4	39.8	8.6	4.1	9.7	37.8	12.7	25.1
		R3	8.4	25.1	40.0	8.6	5.2	12.6	33.5	13.8	19.7
	福祉施策	H20	1.3	11.9	31.6	23.4	17.8	13.5	13.7	41.2	27.5
		H24	2.0	13.4	37.4	20.8	12.7	13.7	15.4	33.5	18.1
		H29	3.2	15.5	39.1	17.7	9.8	14.7	18.7	27.5	8.8
		R3	4.4	17.1	37.3	14.3	9.6	17.3	21.5	23.9	2.4
	福祉・連帯全般	H20	3.5	20.1	40.7	12.4	7.9	15.4	23.6	20.3	3.3
		H24	3.4	20.7	40.8	13.8	5.8	15.5	24.1	19.6	4.5
H29		5.0	22.1	42.4	9.4	5.2	15.9	27.1	14.6	12.5	
R3		5.3	21.8	40.5	8.0	4.7	19.6	27.1	12.7	14.4	
生活全般	H20	5.0	39.7	35.4	12.4	4.7	2.7	44.7	17.1	27.6	
	H24	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	42.9	15.0	27.9	
	H29	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	48.1	12.3	35.8	
	R3	10.5	43.0	33.9	7.3	2.5	2.8	53.5	9.8	43.7	

※満足層＝「満足」＋「どちらかといえば満足」 不満層＝「どちらかといえば不満」＋「不満」

※満足傾向＝満足層－不満層＞0 不満傾向＝満足層－不満層＜0

※「わからない」は無回答を含む。

※四捨五入の関係から±0.1%異なる場合がある。以下の諸表においても同様である。

(1) 「生活全般」の満足度

「生活全般」の満足度は、図表1-2-1の最下欄に示されるように、「満足」が10.5%、「どちらかといえば満足」が43.0%である。満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の比率は、前回（平成29年度調査）の48.1%を5.4ポイント、前々回（平成24年度調査）の42.9%を10.6ポイント上回る53.5%である。50%を超えるのは、20年ぶりであり、ここ30年間で最も高い値となった。また、「どちらかといえば不満」は7.3%、「不満」は2.5%であり、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）は、前々回の15.0%と前回の12.3%を下回る9.8%であった。

満足層と不満層の差（満足傾向）は43.7%であり、前回の35.8%を7.9ポイント上回り、40%台となった。なお、「どちらともいえない」という中間的な層は、前回の37.3%から3.4ポイント減少し33.9%となった。

(2) 「領域全般」の満足度

各領域の「領域全般」について、満足層・不満層、満足傾向・不満傾向を領域間で比較する。

まず、今回の調査で満足層の割合が最も大きい領域となったのは、前々回及び前回から引き続き、「居住環境全般」で60.5%である。次いで、「余暇全般」の52.2%、「安全全般」の49.6%、「健康全般」の46.2%、「労働全般」の41.3%、「所得・消費全般」の41.2%、「教育・文化全般」の28.9%、最後に「福祉・連帯全般」の27.1%の順であった。前回と比較すると、「福祉・連帯全般」の満足層の割合に変化がなかった以外、すべての領域において満足層の割合が増加しており、特に「居住環境全般」、「所得・消費全般」、「余暇全般」がそれぞれ4.1ポイント増加しているなど、領域全般における県民の満足層の割合は前回調査に比べ拡大している。

一方で、不満層の割合が最も大きい領域は、こちらも前々回、前回と同様、「所得・消費全般」で17.7%である。次いで、「福祉・連帯全般」の12.7%、「余暇全般」の12.2%、「労働全般」の11.5%、「居住環境全般」の10.5%、「安全全般」の9.4%、「教育・文化全般」の8.5%、「健康全般」の8.2%という順になっている。前回と比較すると、「教育・文化全般」の不満層の割合が0.3ポイント増加した以外、7つの領域において不満層の割合が縮小しており、特に「所得・消費全般」で4.1ポイント減少している。

次いで、それぞれの「領域全般」に関して、満足傾向・不満傾向の状況について見ていく。

今回の調査では、前回同様、すべての領域において、満足層が不満層を上回っている満足傾向となっており、その傾向の強い順に示すと、50.0%の「居住環境全般」が最上位となり、次いで40.2%の「安全全般」、40.0%の「余暇全般」、38.0%の「健康全般」、29.8%の「労働全般」、23.5%の「所得・消費全般」、20.4%の「教育・文化全般」、14.4%の「福祉・連帯全般」と続いている。

前回の順位と比較すると、前回6位「教育・文化全般」と前回7位「所得・消費全般」が今回それぞれ7位と6位と、順位が入れ替わっている。

なお、すべての領域において前回よりも満足傾向の比率が増加しており、特に「所得・消費全般」で+8.2ポイント、「居住環境全般」で+6.3ポイント、「余暇全般」で+5.7ポイントと増加している。

「領域全般」の満足度を総合的に見ると、各領域において、満足層の割合が前回と同様、もしくは拡大し、不満層の割合が概ね縮小しており、全体的に満足傾向が強まっている。

(3) 「個別項目」の満足度

これまで見てきた「生活全般」及び8つの「領域全般」を除く、35の個別項目の満足度について、次に概観する。

第1に、各項目の満足層・不満層の割合の大小に着目する。

まず、満足層の割合が大きい項目（50%以上）としては、大きい順に、「住宅」（67.7%）、「自然環境」（63.8%）、「日常医療」（63.1%）、「自由時間」（58.1%）、「ごみ・生活排水」（56.7%）、「買い物」（54.5%）、「大気汚染等」（51.8%）が挙げられる。なお、「住宅」、「自然環境」、「日常医療」、「自由時間」の4項目は、過去3回の調査においても満足層の割合が50%以上となっている。

これに対して、満足層の割合が小さい項目（20%以下）は、小さい順に「物価」（11.2%）、「高等教育の機会」（15.8%）、「生涯学習」（17.4%）、「余暇情報」（18.3%）の4項目であり、「物価」、「高等教育の機会」、「生涯学習」の3項目は前回から引き続き満足層が20%以下となっている。

次に、不満層の割合が大きい項目（50%以上）は、「公共交通機関」（50.4%）の1項目であり、前回の調査では2項目であったが、今回は1項目のみとなった。

これに対して、不満層の割合が小さい項目（20%以下）は、小さい順に「検診・相談」（6.5%）、「幼稚園・保育所」（7.5%）、「自然と親しむ機会」（7.7%）、「自然環境」（8.7%）、「仕事のやりがい」（9.8%）、「文化財・伝統継承」（10.0%）、「防犯・防火」及び「小中高の教育」（10.2%）、「日常医療」（10.6%）、「家庭教育」（12.0%）、「住宅」（12.7%）、「文化施設」（13.4%）、「地域とのつながり」（13.8%）、「ごみ・生活排水」（14.9%）、「就職の機会」（15.1%）、「生涯学習」（15.4%）、「大気汚染等」（16.3%）、「労働条件」（16.8%）、「自由時間」（16.9%）、「自然災害」（18.4%）、「高等教育の機会」（18.6%）、「救急医療」（18.8%）、「消費」（19.4%）の23項目であり、前回（16項目）から7項目が追加となっている（「家庭教育」「就職の機会」「労働条件」「自由時間」「高等教育の機会」「救急医療」「消費」）。

第2に、満足傾向・不満傾向の強弱に着目する。

まず、満足傾向（満足層の割合が不満層の割合を上回るもの）が強い項目（30%以上）は、満足傾向（プラス値）の強い順に、「自然環境」（55.1%）、「住宅」（55.0%）、「日常医療」（52.5%）、「ごみ・生活排水」（41.8%）、「自由時間」（41.2%）、「大気汚染等」（35.5%）、「仕事のやりがい」（33.1%）、「防犯・防火」（32.7%）、「買い物」（30.7%）の9項目となった。前回と比較すると、「仕事のやりがい」「防犯・防火」「買い物」の3項目が追加となっている。

次に、不満傾向の項目（満足層の割合を不満層の割合が上回るもの）を挙げると、不満傾向（マイナス値）の強い順に、「物価」（38.6%）、「公共交通機関」（30.1%）、「娯楽」

(13.9%)、「資産」(6.0%)、「余暇情報」(5.6%)、「高等教育の機会」(2.8%)、「福祉施策」(2.4%)の7項目となった。なお、この7項目は、過去3回の調査を含めて一貫して不満傾向にある。

参考までに、前回との比較において、満足層の増減・不満層の増減を組み合わせで整理すると、次の図表1-2-2のとおりである。

図表 1-2-2 質問項目別満足層・不満層の対前回増減（全県）

区分	「不満層」が減少			「不満層」が増加
「満足層」が増加	○日常医療 ○防犯・防火 ○公共交通機関 ○就職の機会 ○所得 ○物価 ○自然と親しむ機会	○救急医療 ○自然災害 ○道路 ○労働条件 ○資産 ○家庭教育 ○福祉施策	○交通安全 ○大気汚染等 ○買い物 ○仕事のやりがい ○消費 ○自由時間	<input type="checkbox"/> 自然環境 <input type="checkbox"/> ごみ・生活排水 <input type="checkbox"/> 住宅
「満足層」が減少	・検診・相談 ・小中高の教育 ・余暇施設	・公園広場等 ・高等教育の機会 ・娯楽	・幼稚園・保育所 ・文化施設 ・余暇情報	●生涯学習 ●文化財・伝統継承 ●地域とのつながり

図表1-2-2の左上の象限（満足層増加・不満層減少）の項目は、満足度水準を引き上げる又は維持する方向に作用するが、ここには全体35項目中の半数以上の20項目（前回29項目）が属する。一方、右下の象限（満足層減少・不満層増加）の項目は、満足度水準を引き下げる方向に作用するため、今後注視していくべき項目と位置付けられるが、今回は「生涯学習」、「文化財・伝統継承」、「地域とのつながり」の3項目が属するだけであることから、全体的に県民満足度は増加傾向にある。

なお、前回、右下の象限に属していた「公共交通機関」、「娯楽」が、それぞれ左上の象限と左下の象限に移動している。

また、左下の象限（満足層・不満層ともに減少）に入る項目のうち、「文化施設」、「余暇情報」は満足層の減少度合いが不満層の減少を超えて大きくなっている。

3 「生活全般」の満足度

ここでは、「生活全般」の満足度について、年次別、属性別に更に詳しく見ていくこととする。

(1) 全県の年次別推移

この調査は、わが国の経済が第1次オイルショックの影響を受けた昭和49年度に始まり、今回で14回目である。そこで、昭和49年度から令和3年度までの48年間における県民の「生活全般」についての満足度はどのように推移してきたかを図示すると、図表1-3-1のとおりである。

図表1-3-1 「生活全般」の満足度（全県）

(単位：点、%)

年次	満足度 得点	満足度					満足傾向	
		■ 満足	■ どちらともいえない	■ 不満	■ どちらかといえば満足	■ どちらかといえば不満	■ わからない	満足傾向 (+)
昭和49年度	35	16.4	38.3	18.7	15.6	10.5	0.5	28.6
昭和52年度	51	16.8	42.6	19.2	12.6	6.7	2.1	40.1
昭和56年度	67	10.0	58.0	21.1	7.6	2.3	0.9	58.1
昭和60年度	67	9.5	58.5	22.2	7.6	1.7	0.5	58.7
平成元年度	73	10.2	61.1	20.8	6.0	1.4	0.5	63.9
平成4年度	34	4.6	42.1	35.0	11.1	3.5	3.7	32.1
平成7年度	37	5.3	42.4	36.8	8.6	4.3	2.8	34.8
平成10年度	35	5.4	42.9	34.3	10.1	4.7	2.6	33.5
平成13年度	40	5.5	45.4	34.3	9.8	3.5	1.5	37.6
平成16年度	36	3.6	44.6	34.7	9.0	3.7	4.2	35.5
平成20年度	29	5.0	39.7	35.4	12.4	4.7	2.7	27.6
平成24年度	31	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	27.9
平成29年度	42	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	35.8
令和3年度	53	10.5	43.0	33.9	7.3	2.5	2.8	43.7

※平成元年度までは面接聴取法による調査。平成4年度から平成24年度までは留め置き法による調査。
平成29年度から留め置き法による調査とオンライン調査を併用にて実施。

昭和49年度から平成元年度までは、「どちらともいえない」とする中間層の比率が20%前後で、満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）が少しずつ増え、逆に、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）が減るという形で推移している。この結果、満足度得点は昭和49年度の35点から一貫して増加し続け、平成元年度にはピークとなる73点に達した。これに伴い、この間の満足傾向は28.6%から63.9%へ強まっている。

しかし、バブル経済の崩壊を背景とする平成4年度の調査では、満足層の大幅な縮小、不満層と中間層の拡大という形でその影響が表れ、満足度得点は34点、満足傾向は32.1%と、平成元年度における約半分と大幅に減少した。

その後、平成16年度までは満足度得点が30点台後半から40点の水準で推移していたが、平成20年度には世界的な経済不安定状況、いわゆる「リーマン・ショック」の影響などから、過去最低

となる29点まで満足度得点が落ち込む結果となった。続く平成24年度調査では、東日本大震災による社会的な不安も影響し、満足度得点は31点と微増にとどまった。平成29年度調査では、国の経済政策などの影響もあり、平成24年度調査から+11点と大きく増加した。個人の価値観までも変化させたと言われている新型コロナウイルス感染症の感染拡大期に実施された今回調査では、前回調査と同様に+11点と大きく増加している。

なお、「どちらともいえない」とする中間層の比率は、昭和49年度から平成元年度まで20%前後であったものが、平成4年度以降概ね35%前後で推移し、今回は33.9%となっており、明らかに傾向が変わっている。これは平成4年度から調査方法が「面接聴取法」から「留め置き法」に変更され、調査員に対して直接回答する必要がなくなったことが、満足・不満の判断を明確にしない誘因のひとつとなったと考えられる。

(2) 属性別の満足度

次に、地域別、性別、年齢別、職業別、居住年数別、県外居住経験別の属性ごとに、「生活全般」の満足度の状況を整理・分析する。

ア 地域別による満足度

図表1-3-2は、「生活全般」の満足度について地域別に示した表である。

まず、満足層の割合の大きい地域順は、「峡中」及び「峡東」(54.2%)、「富士・東部」(53.2%)、「峡南」(52.1%)、「峡北」(51.0%)となっており、最上位の「峡中」「峡東」と最下位の「峡北」の開きは3.2ポイントである。前回との比較では、すべての地域で満足層が増加し、「富士・東部」で+10.6ポイント、「峡東」で+7.6ポイント、「峡中」で+3.2ポイント、「峡北」で+2.7ポイント、「峡南」で+0.4ポイントとなっている。

一方、不満層の割合の大きい地域順は、「富士・東部」(11.3%)、「峡中」(10.0%)、「峡北」(9.9%)、「峡南」(9.2%)、「峡東」(7.0%)となり、最上位の「富士・東部」と最下位の「峡東」の開きは4.3ポイントである。前回との比較では、「峡北」で不満層が2.2ポイント拡大した以外は縮小しており、「峡東」で-7.1ポイント、「富士・東部」で-2.7ポイント、「峡南」で-2.0ポイント、「峡中」で-1.7ポイントとなっている。なお、参考までに、今回と過去3回の調査における満足層と不満層の地域別順位をまとめると、図表1-3-3のとおりである。

次に、満足度得点を見ると、得点の高い地域順に、「峡東」(60点)、「峡中」(54点)、「峡南」(52点)、「峡北」(50点)、「富士・東部」(49点)となっており、最上位の「峡東」と最下位の「富士・東部」の開きは11点である。前回との比較ではすべての地域で満足度得点が増加しており、「峡東」で+19点、「富士・東部」で+15点、「峡中」で+8点、「峡南」で+7点、「峡北」で+2点となっている。

最後に、満足傾向・不満傾向を見ると、すべての地域において満足傾向となり、その傾向の強い地域順は、「峡東」(47.2%)、「峡中」(44.2%)、「峡南」(42.9%)、「富士・東部」(41.9%)、「峡北」(41.1%)となっている。

図表 1-3-2 「生活全般」の満足度（地域別）

（単位：点、％）

地域	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
全 県	H20	29	5.0	39.7	44.7	35.4	12.4	4.7	17.1	2.7	27.6	
	H24	31	6.9	36.0	42.9	39.7	10.7	4.3	15.0	2.5	27.9	
	H29	42	8.9	39.2	48.1	37.3	9.1	3.2	12.3	2.3	35.8	
	R3	53	10.5	43.0	53.5	33.9	7.3	2.5	9.8	2.8	43.7	
峡中	H20	30	4.3	41.4	45.7	35.6	11.5	4.6	16.1	2.7	29.6	
	H24	37	7.8	37.3	45.0	39.4	10.2	3.0	13.2	2.4	31.8	
	H29	46	9.1	41.9	51.0	35.0	8.5	3.2	11.7	2.3	39.3	
	R3	54	11.3	42.9	54.2	33.4	7.2	2.8	10.0	2.4	44.2	
峡北	H20	26	6.4	32.7	39.1	43.6	9.6	5.1	14.7	2.6	24.4	
	H24	30	7.1	37.4	44.5	35.5	12.9	4.5	17.4	2.6	27.1	
	H29	48	9.1	39.2	48.3	44.1	6.3	1.4	7.7	0.0	40.6	
	R3	50	9.9	41.1	51.0	37.6	8.5	1.4	9.9	1.4	41.1	
峡東	H20	25	4.1	38.4	42.5	35.1	13.9	4.5	18.4	4.0	24.1	
	H24	20	4.3	37.6	41.8	36.9	13.5	6.4	19.9	1.4	21.9	
	H29	41	9.4	37.2	46.6	35.4	11.6	2.5	14.1	4.0	32.5	
	R3	60	11.2	43.0	54.2	34.9	5.8	1.2	7.0	3.9	47.2	
峡南	H20	22	3.2	43.5	46.7	26.6	20.2	4.0	24.2	2.4	22.5	
	H24	24	5.2	35.7	40.9	37.4	13.9	4.3	18.3	3.5	22.6	
	H29	45	7.8	44.0	51.7	35.3	6.9	4.3	11.2	1.7	40.5	
	R3	52	8.2	43.9	52.1	37.8	9.2	0.0	9.2	1.0	42.9	
富士・東部	H20	32	6.8	39.2	46.0	34.9	11.8	5.0	16.8	2.3	29.2	
	H24	30	7.4	32.1	39.5	44.4	7.9	4.9	12.8	3.2	26.7	
	H29	34	8.4	34.2	42.6	41.1	9.9	4.1	14.0	2.3	28.6	
	R3	49	9.3	43.9	53.2	31.8	7.6	3.7	11.3	3.7	41.9	

図表 1-3-3 満足層・不満層の地域別順位一覧

年度		峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
満足層	平成 20 年度	3	5	4	1	2
	平成 24 年度	1	2	3	4	5
	平成 29 年度	2	3	4	1	5
	令和 3 年度	1	5	1	4	3
不満層	平成 20 年度	2	1	4	5	3
	平成 24 年度	2	3	5	4	1
	平成 29 年度	3	1	5	2	4
	令和 3 年度	4	3	1	2	5

※満足層は%の高い順、不満層は%の低い順。

イ 性別による満足度

図表1-3-4は、性別で見た「生活全般」の満足度を示した表である。

まず、満足層の割合について見ると、「男性」の52.2%に対して「女性」は55.4%と、「女性」の方が3.2ポイント大きくなっている。一方、不満層では「男性」の9.7%に対して「女性」は9.6%と、「男性」の方が0.1ポイント大きい。満足度得点については、「男性」（52点）より「女性」（55点）が3点高く、満足傾向についても、「女性」（45.8%）が「男性」（42.5%）よりも3.3ポイント大きいなど、総じて、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高い。

前回の結果と比較すると、「男性」、「女性」ともに満足層の割合は拡大して不満層の割合は縮小、満足度得点は増加していることから、性別に関係なく全体的に満足度水準は向上している。

図表 1-3-4 「生活全般」の満足度（性別）

(単位：点、%)

性別	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
男 性	H20	18	4.2	34.5	38.7	38.0	15.0	5.5	20.5	2.8	18.2	
	H24	30	6.5	35.5	42.0	40.9	11.1	4.1	15.2	2.0	26.8	
	H29	37	7.1	38.7	45.8	39.3	10.2	3.3	13.5	1.5	32.4	
	R3	52	9.8	42.4	52.2	34.9	7.5	2.2	9.7	3.3	42.5	
女 性	H20	39	5.7	44.5	50.2	33.1	10.1	3.9	14.0	2.7	36.2	
	H24	33	7.3	36.6	43.9	38.2	10.2	4.5	14.7	3.1	29.2	
	H29	49	10.8	39.7	50.5	35.2	7.9	3.1	11.0	3.3	39.5	
	R3	55	11.2	44.2	55.4	32.8	7.0	2.6	9.6	2.1	45.8	
その他	H20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	H29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	R3	40	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	

※令和3年度調査から「その他」を追加。

ウ 年齢別による満足度

10歳階級による年齢別の「生活全般」の満足度は、図表1-3-5のとおりである。

まず、満足層の割合について見ると、大きい順に、75.6%の「18～19歳」、65.5%の「20代」、56.2%の「70歳以上」、52.4%の「50代」、49.3%の「60代」、49.2%の「30代」、48.2%の「40代」となっている。一方、不満層の割合を見ると、小さい順に、0.0%の「18～19歳」、7.0%の「20代」、9.0%の「60代」、9.4%の「70歳以上」、10.8%の「40代」、11.0%の「50代」、12.4%の「30代」となっている。

前回の結果との比較によると、不満層の割合は、「70歳以上」を除き、すべての年齢層で縮小しているが、満足層の割合は「20代」（+21.9ポイント）で2桁の増加が見られる一方、「70歳以上」（-3.0ポイント）で減少しているなど年齢層で傾向にばらつきが見られる。

次に、満足度得点について見ると、高い順に、「18～19歳」（113点）、「20代」（86点）、「70歳以上」（56点）、「30代」（49点）、「50代」（46点）、「60代」（44点）、「40代」（43点）となっている。

前回の結果との比較では、「20代」（+54点）、「18～19歳」（+31点）で大きく増加している一方、「70歳以上」（-14点）では減少するなど、満足度得点においても年齢層による傾向のばらつきが確認できる。

図表 1-3-5 「生活全般」の満足度（年齢別）

（単位：点、％）

満足度 年 齢	年 度	満足層				どちらともいえない	不満層			不明	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		満足度得点	満足	どちらかといえば満足	計		どちらかといえば不満	不満	計			
18 ～19歳	H20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	H29	82	17.5	52.5	70.0	22.5	2.5	2.5	5.0	2.5	65.0	
	R3	113	31.7	43.9	75.6	19.5	0.0	0.0	0.0	4.9	75.6	
20 ～29歳	H20	37	7.2	37.2	44.4	38.2	10.6	2.9	13.5	3.9	30.9	
	H24	34	7.5	35.4	42.9	38.5	13.7	1.9	15.5	3.1	27.3	
	H29	32	7.9	35.6	43.6	38.6	10.9	4.5	15.3	2.5	28.2	
	R3	86	26.8	38.7	65.5	24.6	4.9	2.1	7.0	2.8	58.5	
30 ～39歳	H20	17	2.9	36.9	39.8	38.0	15.0	5.5	20.5	1.8	19.3	
	H24	31	5.4	41.6	47.0	34.4	11.3	5.4	16.7	1.8	30.3	
	H29	32	9.5	32.9	42.3	39.6	11.3	4.5	15.8	2.3	26.6	
	R3	49	13.5	35.7	49.2	36.2	9.7	2.7	12.4	2.2	36.8	
40 ～49歳	H20	12	2.7	36.9	39.6	33.9	15.0	8.0	23.0	3.7	16.6	
	H24	31	5.8	35.3	41.1	44.5	10.4	2.8	13.2	1.2	27.9	
	H29	39	6.5	40.2	46.7	38.8	9.6	2.7	12.4	2.1	34.4	
	R3	43	6.0	42.2	48.2	39.4	9.2	1.6	10.8	1.6	37.4	
50 ～59歳	H20	29	5.8	39.2	45.0	35.1	13.7	4.4	18.1	1.8	26.9	
	H24	17	6.1	30.9	37.0	41.1	14.6	5.8	20.4	1.5	16.6	
	H29	41	7.2	41.0	48.1	37.2	10.6	2.0	12.6	2.0	35.5	
	R3	46	7.7	44.7	52.4	35.2	7.7	3.3	11.0	1.5	41.4	
60 ～69歳	H20	37	4.5	42.8	47.3	37.0	9.9	2.7	12.6	3.1	34.7	
	H24	37	7.6	37.7	45.3	39.5	9.9	3.4	13.3	1.8	32.0	
	H29	33	5.6	38.5	44.1	40.5	8.9	4.4	13.3	2.1	30.8	
	R3	44	6.0	43.3	49.3	39.6	5.6	3.4	9.0	2.2	40.3	
70歳 以上	H20	47	7.9	46.3	54.2	30.4	8.8	4.0	12.8	2.6	41.4	
	H24	41	8.9	36.7	45.6	37.4	5.0	5.7	10.7	6.4	34.9	
	H29	70	16.5	42.7	59.2	31.1	4.9	1.5	6.4	3.4	52.8	
	R3	56	9.1	47.1	56.2	30.0	7.3	2.1	9.4	4.4	46.8	

※平成29年度調査から「18～19歳」の年齢層を追加。

エ 職業別による満足度

本調査における「職業別」とは、「自営業・家族従業者」（農林水産業、商工・サービス業、自由業）、「勤め人」（民間企業従業員、公務員など）、「その他」（学生、パート勤務を含む主婦・主夫、その他）をいう。職業別の「生活全般」の満足度は、図表1-3-6のとおりである。

「自営業・家族従業者」「勤め人」「その他」の満足層の割合は、それぞれ53.0%、52.9%、55.0%であり、不満層の割合は、それぞれ11.8%、10.4%、7.9%となった。同様に満足度得点は、それぞれ50点、51点、58点であり、満足傾向は、41.2%、42.5%、47.1%である。前回の結果と比較すると、満足度得点、満足層の割合、満足傾向すべてにおいて増加している。

なお、過去3回の調査結果においては、「勤め人」は他の職業と比べて満足度水準が低くなる傾向が確認できたが、今回は、「自営業・家族従業者」を上回る結果となった。

図表 1-3-6 「生活全般」の満足度（職業別）

(単位：点、%)

職業	年度	満足度 満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不 満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
自 営 業 ・ 家 族 従 業 者	H20	31	6.1	40.7	46.8	32.3	12.2	5.2	17.4	3.5	29.4	
	H24	35	8.0	37.6	45.6	37.8	8.6	5.5	14.1	2.5	31.5	
	H29	44	7.9	41.4	49.3	36.1	8.6	3.0	11.6	3.0	37.7	
	R3	50	9.9	43.1	53.0	32.3	8.9	2.9	11.8	2.9	41.2	
勤 め 人	H20	27	4.0	38.7	42.7	38.1	12.5	4.2	16.7	2.6	26.0	
	H24	27	5.7	35.3	41.0	41.3	12.6	3.7	16.3	1.5	24.7	
	H29	35	6.3	38.7	45.0	39.5	10.9	3.2	14.1	1.4	31.0	
	R3	51	9.4	43.5	52.9	34.6	8.2	2.2	10.4	2.0	42.5	
そ の 他	H20	29	5.4	40.2	45.6	34.4	12.6	4.9	17.5	2.5	28.1	
	H24	34	7.4	35.9	43.3	39.1	10.0	4.1	14.1	3.4	29.2	
	H29	49	11.6	38.4	50.0	36.0	7.6	3.4	11.0	3.0	39.0	
	R3	58	12.0	43.0	55.0	34.1	5.5	2.4	7.9	3.0	47.1	

オ 居住年数別及び県外居住経験別による満足度

図表1-3-7では、回答者の本県における居住年数を「5年未満」「5～10年未満」「10～20年未満」「20年以上」に区分し、また、県外での居住経験の「あり」「なし」で分け、それぞれの満足度を示している。

まず、満足層の割合について、大きい順に、「5年未満」(60.6%)、「10～20年未満」(57.5%)、「20年以上」(53.0%)、「5～10年未満」(50.0%)となっており、同様に、不満層の割合は「20年以上」(10.0%)、「10～20年未満」(9.6%)、「5～10年未満」(8.4%)、「5年未

満」(4.2%)となっている。

なお、最もサンプル数の多い「20年以上」において前回と比較すると、満足度得点で10点、満足層の割合で5.9ポイント増加しているほか、満足傾向においても8.8ポイント増加している。

次に、県外での「居住経験あり」「居住経験なし」の区分による満足度得点を見ると、「居住経験あり」が51点、「居住経験なし」は56点と同水準であり、満足層の割合や満足傾向についても、それぞれ0.1ポイント、1.0ポイントの開きしかない。

図表1-3-7 「生活全般」の満足度(居住年数別・県外居住経験別)

(単位：点、%)

年数	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
5年 未満	H20	58	9.1	54.5	63.6	21.2	15.2	—	15.2	—	48.4	
	H24	14	8.6	28.6	37.2	42.9	8.6	11.4	20.0	—	17.2	
	H29	43	7.1	46.4	53.6	32.1	10.7	3.6	14.3	—	39.3	
	R3	83	25.4	35.2	60.6	32.4	2.8	1.4	4.2	2.8	56.4	
5～10 年未満	H20	55	6.3	46.9	53.2	31.3	3.1	3.1	6.2	9.3	47.0	
	H24	46	11.4	42.9	54.3	28.6	14.3	2.9	17.2	—	37.1	
	H29	56	6.7	44.4	51.1	42.2	0.0	2.2	2.2	4.4	48.9	
	R3	50	11.1	38.9	50.0	41.7	5.6	2.8	8.4	0.0	41.6	
10～20 年未満	H20	24	6.0	35.1	41.1	36.6	13.4	5.2	18.6	3.7	22.5	
	H24	28	12.4	25.6	38.0	41.3	11.6	5.8	17.4	3.3	20.6	
	H29	52	9.5	44.6	54.2	33.9	7.1	3.0	10.1	1.8	44.0	
	R3	62	16.4	41.1	57.5	29.5	4.8	4.8	9.6	3.4	47.9	
20年 以上	H20	28	4.8	39.7	44.5	35.7	12.5	4.8	17.3	2.5	27.2	
	H24	32	6.3	36.8	43.1	39.7	10.6	4.0	14.6	2.6	28.5	
	H29	41	8.9	38.1	47.1	37.7	9.6	3.3	12.8	2.4	34.2	
	R3	51	9.1	43.9	53.0	34.3	7.7	2.3	10.0	2.7	43.0	
県外 居住 経験	あり	H20	27	4.6	40.6	45.2	34.2	13.1	5.1	18.2	2.4	27.0
		H24	34	7.9	35.1	43.0	40.5	10.3	4.0	14.3	2.3	28.7
		H29	43	8.2	41.4	49.6	36.5	9.3	3.2	12.5	1.5	37.1
		R3	51	9.4	44.6	54.0	33.8	7.3	2.9	10.2	2.0	43.8
	なし	H20	30	5.4	38.8	44.2	36.7	11.7	4.3	16.0	3.1	28.2
		H24	29	5.8	36.9	42.7	38.8	11.1	4.6	15.7	2.8	27.0
		H29	42	9.6	36.6	46.2	38.3	8.9	3.2	12.2	3.4	34.0
		R3	56	11.8	42.1	53.9	33.8	7.2	1.9	9.1	3.3	44.8

カ まとめ

以上、過去3回の調査結果も含めて属性別の満足度について見てきたが、これらは次のとおり要約される。

第1に、県全体における満足度水準は向上しており、満足度得点は前回から11点増加している（前回調査同様）。地域別で見ても、すべての地域で満足度得点は増加しており、特に「峡東」（+19点）、「富士・東部」（+15点）では大きく増加している。

第2に、性別で見た場合は、「男性」「女性」とともに満足度得点、満足層の割合、満足傾向は増加しており、過去の結果を含めて「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高いことが確認できる。ただし、「男性」が今回も含めてこれまで満足度得点が増加傾向にある一方、「女性」は前々回に減少し、その後増加しているなど、その傾向に違いがある。

第3に、年齢別で見た場合、前回の結果との比較では、「20代」（+54点）、「18～19歳」（+31点）、「30代」（+17点）と、満足度得点が大幅に増加した年齢層がある一方、「70歳以上」は減少しているなど、年齢層によってばらつきが見られる。

第4に、職業別で見た場合、過去の調査では、「勤め人」の満足度水準が他の職業に比べて若干低い傾向にあったものの、今回は「自営業・家族従業者」を上回る結果となった。

第5に、県内への居住年数別及び県外居住経験別で見た場合、「5～10年未満」で満足度得点が減少した以外、すべての居住年数層において満足度得点が増加している。また、県外における「居住経験あり」「居住経験なし」においても、ともに満足度得点が増加していることから、これらの区分においても満足度水準の傾向に明確な違いを確認することは出来なかった。

4 「領域全般」の満足度

ここでは、図表1-1-1の左欄に示す「健康」「安全」「居住環境」「労働」「所得・消費」「教育・文化」「余暇」「福祉・連帯」の8領域について、満足度得点を用いた「領域全般」ごとの満足度の状況及び推移を見ていくこととする。

(1) 地域別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-1 満足度得点（地域別・領域全般別）

(単位：点)

地域 領域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部	最高値	最低値	最高と 最低差	差幅 動向
健康	H20	18	25	21	27	19	0	27	0	27	-13
	H24	31	38	23	43	26	12	43	12	31	
	H29	43	51	23	50	41	31	51	23	28	
	R3	55	59	48	60	58	45	60	45	15	
安全	H20	22	22	22	31	23	17	31	17	14	-4
	H24	33	37	34	40	6	26	40	6	34	
	H29	45	50	43	39	35	44	50	35	15	
	R3	52	54	53	52	43	48	54	43	11	
居住環境	H20	41	46	37	46	15	38	46	15	31	±0
	H24	46	57	27	49	26	37	57	26	31	
	H29	54	61	55	56	38	44	61	38	23	
	R3	65	75	56	60	52	56	75	52	23	
労働	H20	31	27	34	31	42	36	42	27	15	-14
	H24	33	34	22	36	40	33	40	22	18	
	H29	37	44	30	31	55	28	55	28	27	
	R3	50	45	45	58	48	56	58	45	13	
所得・消費	H20	-17	-14	-12	-22	-38	-16	-12	-38	26	-14
	H24	-5	1	-14	-11	-7	-7	1	-14	15	
	H29	15	18	28	12	4	11	28	4	24	
	R3	29	32	32	28	25	22	32	22	10	
教育・文化	H20	12	11	7	19	13	10	19	7	12	+8
	H24	18	19	17	24	18	15	24	15	9	
	H29	26	30	23	29	21	18	30	18	12	
	R3	30	39	19	26	23	19	39	19	20	
余暇	H20	40	42	39	37	38	41	42	37	5	-15
	H24	38	43	32	36	27	37	43	27	16	
	H29	42	46	58	36	51	30	58	30	28	
	R3	53	52	56	58	62	49	62	49	13	
福祉・連帯	H20	-1	-4	-6	-14	19	6	19	-14	33	+9
	H24	3	1	-4	6	20	0	20	-4	24	
	H29	14	14	7	13	39	11	39	7	32	
	R3	19	20	5	18	46	13	46	5	41	

※色付きは最高点の地域（濃い色）と最低点の地域（薄い色）を示す。

※「差幅動向」欄で、+値は前回よりも地域間格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

「全県」における各領域全般の5段階評価による満足度の割合及び満足層、不満層、満足傾向、不満傾向については、先の図表1-2-1のとおりであるが、図表1-4-1では、所定の算式（図表1-1-2）にしたがって得点化し、各領域全般において調査年度別、地域別に示した。

まず、「全県」において満足度得点の高い順にその領域を挙げると、1位は65点の「居住環境」、2位は55点の「健康」、3位は53点の「余暇」、4位は52点の「安全」、5位は50点の「労働」、6位は30点の「教育・文化」、7位は29点の「所得・消費」、8位は19点の「福祉・連帯」である。

前回順位と比べると、前回1位「居住環境」は今回変わらず、前回3位「健康」が今回2位に、前回4位「余暇」が今回3位に上がった一方、前回2位「安全」が今回4位へと順位を下げている。

前回との得点比較では、すべての領域で増加しており、増加得点の大きい順に、「所得・消費」（+14点）、「労働」（+13点）、「健康」（+12点）、「居住環境」及び「余暇」（+11点）、「安全」（+7点）、「福祉・連帯」（+5点）、「教育・文化」（+4点）となっている。

次に、地域間で得点の開きが最も大きい領域は「福祉・連帯」であり、最上位（「峡南」46点）と最下位（「峡北」5点）の開きは41点であり、前回（32点）から9点増加している。一方、最も開きの小さい領域は「所得・消費」で、最上位（「峡中」「峡北」32点）と最下位（「富士・東部」22点）の開きは10点で、前回（24点）から14点減少している。なお、他の領域における地域間の開きは、「居住環境」で23点、「教育・文化」で20点、「健康」で15点、「労働」及び「余暇」で13点、「安全」で11点となっている。

（2）地域別・領域全般別の満足度得点の対前回増減

次に、全県及び各地域における各領域全般の満足度得点の前回からの変化について、さらに子細に見てみる。図表1-4-2は、先の図表1-4-1に基づき、満足度得点の増減の度合いを示した一覧表である。

図表1-4-2 満足度得点对前回増減（地域別・領域全般別）

(単位：点)

地域 領域	全 県	峡 中	峡 北	峡 東	峡 南	富士・ 東 部	増 点 地域数	減 点 地域数
健 康	12	8	25	10	17	14	5 (2)	0 (0)
安 全	7	4	10	13	8	4	5 (0)	0 (0)
居住環境	11	14	1	4	14	12	5 (0)	0 (0)
勞 働	13	1	15	27	-7	28	4 (3)	1 (0)
所得・消費	14	14	4	16	21	11	5 (2)	0 (0)
教育・文化	4	9	-4	-3	2	1	3 (0)	2 (0)
余 暇	11	6	-2	22	11	19	4 (2)	1 (0)
福祉・連帯	5	6	-2	5	7	2	4 (0)	1 (0)
増点領域数		8 (0)	5 (2)	7 (3)	7 (2)	8 (2)	35 (9)	
減点領域数		0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)		5 (0)

※増減点＝今回の得点－前回の得点。

※色付きは最高点の地域（濃い色）と最低点の地域（薄い色）を示す。

※（ ）内は15点以上の増減の地域数、領域数。

「全県」ではすべての領域で満足度得点が増加しており、地域別における減点領域数、領域別における減点地域数が過半以上となっている領域、地域はない。図表1-4-2の最右欄と最下欄にも示されるように、全体で40の地域・領域の区分中（5地域×8領域）、増加している地域・領域数は35、減点となった地域・領域数は5である。また、15点以上の増減があった地域・領域数については、図表1-4-2において（ ）内に示されるように、減点が0地域・領域である一方、増加は9地域・領域（峡中：なし、峡北：「健康」「労働」、峡東：「労働」「所得・消費」「余暇」、峡南：「健康」「所得・消費」、富士・東部：「労働」「余暇」）に及んでいる。

地域別で見ると、「峡中」「富士・東部」ではすべての領域で増加している。「峡東」及び「峡南」は7つの領域、「峡北」では5つの領域で増加している。また、領域別では、「健康」「安全」「居住環境」「所得・消費」ではすべての地域で増加しており、すべての地域で減少した領域はない。なお、図表1-4-1、図表1-4-2から各地域及び各領域における満足度得点の特徴を見ると、次のとおりである。

〔地域別〕

峡中……………「安全」（54点）、「居住環境」（75点）、「所得・消費」（32点）、「教育・文化」（39点）において、最上位となっている。特に「居住環境」は過去3回の調査を含めて一貫して最上位となっている。一方、「労働」（45点）は最下位となっている。前回との比較では、すべての領域で増加しており、特に「居住環境」及び「所得・消費」（+14点）で大きく増加している。

峡北……………「所得・消費」（32点）において、前回に続き、最上位となっている一方、「労働」（45点）、「教育・文化」（19点）、「福祉・連帯」（5点）では最下位となっている。前回との比較では「健康」（+25点）、「労働」（+15点）、「安全」（+10点）で大きく増加している。

峡東……………「健康」（60点）、「労働」（58点）で最上位となった一方、最下位の項目はなかった。前回と比較すると、「労働」（+27点）、「余暇」（+22点）、「所得・消費」（+16点）、「安全」（+13点）、「健康」（+10点）で大きく増加している。

峡南……………「福祉・連帯」（46点）で過去3回を含めて一貫して最上位となったほか、「余暇」（62点）も最上位となっている。一方、「安全」（43点）、「居住環境」（52点）で最下位となっている。前回との比較では、「所得・消費」（+21点）、「健康」（+17点）、「居住環境」（+14点）、「余暇」（+11点）で大きく増加している。

富士・東部…最上位の項目がない一方、「健康」「所得・消費」「教育・文化」「余暇」で最下位となっている。前回との比較では、すべての領域で増加しており、特に「労働」（+28点）、「余暇」（+19点）、「健康」（+14点）、「居住環境」（+12点）、「所得・消費」（+11点）で大きく増加している。他の地域と比較して満足度水準が低い状況ではあるものの、満足度得点は増加傾向にある。

〔領域別〕

健康……最上位（「峡東」60点）と最下位（「富士・東部」45点）の開きは15点と前回（28点）から縮小している。前回との比較では、「峡北」（+25点）、「峡南」（+17点）、「富士・東部」（+14点）、「峡東」（+10点）、「峡中」（+8点）と、すべての地域で増加している。

安全……最上位（「峡中」54点）と最下位（「峡南」43点）の開きは11点と前回（15点）から縮小している。前回との比較では、「峡東」（+13点）、「峡北」（+10点）、「峡南」（+8点）、「峡中」及び「富士・東部」（+4点）と、すべての地域で増加している。

居住環境……最上位（「峡中」75点）と最下位（「峡南」52点）の開きは23点と前回（23点）同様となっている。前回との比較では、「峡中」及び「峡南」（+14点）、「富士・東部」（+12点）、「峡東」（+4点）、「峡北」（+1点）と、すべての地域で増加している。

労働……最上位（「峡東」58点）と最下位（「峡中」及び「峡北」45点）の開きは13点と前回（27点）から縮小している。前回との比較では、「富士・東部」（+28点）、「峡東」（+27点）などで大きく増加している一方、「峡南」では7点減少しており、地域によってばらつきのある領域となった。

所得・消費……最上位（「峡中」及び「峡北」32点）と最下位（「富士・東部」22点）の開きは10点と前回（24点）から縮小している。前回との比較では、「峡南」（+21点）、「峡東」（+16点）、「峡中」（+14点）、「富士・東部」（+11点）、「峡北」（+4点）と、すべての地域で増加している。

教育・文化……最上位（「峡中」39点）と最下位（「峡北」及び「富士・東部」19点）の開きは20点と前回（12点）から拡大している。前回との比較では、「峡中」（+9点）などで増加している一方、「峡北」（-4点）と「峡東」（-3点）では減少しており、地域によってばらつきのある領域となった。

余暇……最上位（「峡南」62点）と最下位（「富士・東部」49点）の開きは13点と前回（28点）から縮小している。前回との比較では、「峡東」（+22点）、「富士・東部」（+19点）などで大きく増加している一方、「峡北」で2点減少しており、地域によってばらつきのある領域となった。

福祉・連帯……最上位（「峡南」46点）と最下位（「峡北」5点）の開きは41点と前回（32点）から拡大しており、その開きがすべての領域の中で最も大きい結果となった。前回との比較では、「峡南」（+7点）などで増加している一方、「峡北」で2点減少しており、地域によってばらつきのある領域となった。

(3) 属性別・領域全般別の満足度得点

次に、性別、年齢別、県外居住経験別による満足度得点とその傾向を見ていく。

ア 性別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-3は、各領域全般の満足度得点を性別で整理したものである。その得点を比較すると、今回、「男性」と「女性」の得点差が2桁ある領域は見られなかった。

前回との比較では、「女性」の「教育・文化」において変化がなかった以外、すべての領域で増加しており、とりわけ「男性」では「所得・消費」が+18点、「女性」では「余暇」が+10点と大きく増加している。

図表1-4-3 満足度得点（性別・領域全般別）

(単位：点)

領域	性別	年度	男性	女性	その他	男女 得点差	対前回増減	
							男性	女性
健康		H20	15	21		6		
		H24	29	32		3		
		H29	40	47		7		
		R3	54	56	100	2 (-5)	+ 14	+ 9
安全		H20	21	23		2		
		H24	35	30		5		
		H29	44	47		3		
		R3	53	51	25	2 (-1)	+ 9	+ 4
居住環境		H20	38	44		6		
		H24	44	48		4		
		H29	50	59		9		
		R3	66	65	100	1 (-8)	+ 16	+ 6
労働		H20	21	42		21		
		H24	33	34		1		
		H29	33	43		10		
		R3	50	51	-75	1 (-9)	+ 17	+ 8
所得・消費		H20	-27	-9		18		
		H24	-5	-5		0		
		H29	9	22		13		
		R3	27	30	25	3 (-10)	+ 18	+ 8
教育・文化		H20	7	16		9		
		H24	16	21		5		
		H29	23	29		6		
		R3	31	29	25	2 (-4)	+ 8	± 0
余暇		H20	36	44		8		
		H24	39	37		2		
		H29	43	41		2		
		R3	56	51	-25	5 (+3)	+ 13	+ 10
福祉・連帯		H20	-9	5		14		
		H24	3	2		1		
		H29	12	17		5		
		R3	17	20	-50	3 (-2)	+ 5	+ 3

※「得点差」欄の（ ）内で、+値は前回よりも男女間格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

イ 年齢別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-4は、年齢別の満足度得点を示したものである。前回との比較を踏まえて概観すると、次のとおりである。

なお、「18～19歳」については前回調査から追加された年齢層であり、図表1-4-4の最右欄にある「最高と最低差」の経年比較においては、他の年齢層と比べて数が少ないことから、前回同様この年齢層を除外して行うこととする。

第1に、年齢別で見ると、「18～19歳」が「居住環境」「福祉・連帯」以外の領域において最上位を占めている。また、「20代」は「居住環境」及び「福祉・連帯」で最上位、「労働」を除く5領域で次点となるなど比較的満足度水準の高い年齢層となった。一方、「40代」は5領域で最下位となるなどすべての年齢層の中で最も最下位領域が多くなっており、「60代」も3領域で最下位となっている。

第2に、領域別で見ると、「健康」及び「安全」は「18～19歳」が最上位となり、次いで「20代」、「70歳以上」と続いている一方、どちらも「40代」が最下位となっている。「居住環境」は「20代」、「18～19歳」、「30代」の得点が比較的高く、それ以外の年齢層でも他の領域より高い水準の満足度得点となっている。「労働」は「18～19歳」が最上位となり、次いで「70歳以上」が続いている一方、「30代」「50代」「60代」では同一水準、「40代」が最下位となっている。「所得・消費」及び「教育・文化」は「18～19歳」が最上位となり、次いで「20代」と続いている一方、「60代」が最下位となっている。「余暇」では「18～19歳」が最上位となり、次いで「20代」と続いている一方、「40代」が最下位となっている。「福祉・連帯」では「20代」が最上位、次いで「18～19歳」と続いているが、他の年齢層では低水準となっている。

第3に、前回との比較で見ると、「20代」「30代」「60代」はすべての領域において増加している一方、「70歳以上」では6領域で、「18～19歳」「40代」では4領域で、「50代」では1領域で減少となっているなど、年齢層で傾向の違いが確認できる。

第4に、領域ごとに年齢層間における最高と最低の得点差に着目して見ると、「労働」（-22点）、「健康」（-4点）を除いた他の領域において得点差が拡大しており、「所得・消費」で+22点、「余暇」及び「安全」で+18点、「教育・文化」で+17点、「居住環境」で+8点、「福祉・連帯」で+6点となっている。

図表1-4-4 満足度得点（年齢別・領域全般別）

（単位：点）

年齢 領域	年 度	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	最高と 最低差
健 康	H20	—	11	-2	0	16	27	65	67
	H24	—	31	15	20	16	47	49	34
	H29	111	50	20	32	34	41	70	50
	R3	106	82	49	36	49	45	66	46
	差	-5	32	29	4	15	4	-4	(- 4)
安 全	H20	—	31	9	5	20	29	49	44
	H24	—	36	31	26	17	46	41	29
	H29	100	55	33	34	35	43	66	33
	R3	92	82	49	31	49	44	59	51
	差	-8	27	16	-3	14	1	-7	(+ 18)
居住環境	H20	—	39	28	23	47	45	69	46
	H24	—	29	46	50	35	59	47	30
	H29	86	51	47	46	54	48	73	27
	R3	87	90	69	58	63	55	67	35
	差	1	39	22	12	9	7	-6	(+ 8)
労 働	H20	—	31	16	19	40	45	46	30
	H24	—	28	30	37	26	40	39	14
	H29	38	17	29	40	38	41	61	44
	R3	100	58	47	39	49	49	61	22
	差	62	41	18	-1	11	8	± 0	(- 22)
所得・消費	H20	—	9	-25	-31	-27	-14	-5	40
	H24	—	25	12	-3	-15	-14	-13	40
	H29	78	27	24	8	15	-2	21	29
	R3	106	67	31	26	21	16	23	51
	差	28	40	7	18	6	18	2	(+ 22)
教育・文化	H20	—	8	9	2	13	12	35	33
	H24	—	23	27	9	20	14	27	18
	H29	97	34	23	29	21	8	36	28
	R3	87	58	39	21	24	13	30	45
	差	-10	24	16	-8	3	5	-6	(+ 17)
余 暇	H20	—	51	33	12	35	60	62	50
	H24	—	43	37	26	23	51	53	30
	H29	83	30	37	32	34	38	78	48
	R3	100	96	47	30	46	40	65	66
	差	17	66	10	-2	12	2	-13	(+ 18)
福祉・連帯	H20	—	-12	-9	-19	-5	3	37	56
	H24	—	4	-3	2	-6	1	19	25
	H29	100	16	2	5	16	-3	41	44
	R3	41	57	7	7	13	14	25	50
	差	-59	41	5	2	-3	17	-16	(+ 6)

※「最高と最低差」欄では、平成 29 年度調査から追加された「18～19 歳」を含まずに算出。
 ※「最高と最低差」欄の（ ）内で、+ 値は前回よりも年齢層間格差が拡大、- 値は縮小の傾向を示す。
 ※「差」は平成 29 年度調査と令和 3 年度調査との得点差。

ウ 県外居住経験別・領域全般別の満足度得点

図表1-4-5は、県外居住経験別による各領域の満足度得点を示したものである。

県外での「居住経験なし」の層の県民は、すなわち、山梨県で生まれ、育ち、そして現在も山梨県で暮らしている人々であることから、この層の満足度得点を経年で見えていくことで、定点観測的に本県の生活満足度の推移を評価することができると考えられる。

一方、県外での「居住経験あり」の層は、たとえば、山梨県で生まれ、育ち、いったん他の都道府県で暮らし、再び山梨県に戻って暮らすというケースや、他の都道府県で生まれ、育ち、そして、現在は山梨県で暮らしているというケースなどが考えられる。

ゆえに、「居住経験あり」の層は、他の都道府県と本県とを比較する視点をもって客観的な満足度評価を行いやすい人々と言えるため、この層の満足度得点の推移を見ていくことは、本県における生活の満足度を他地域との関係で相対的に評価するのに有用と考えられる。

今回、「居住経験なし」と「居住経験あり」を比べると、「労働」（50点）が同点の他は、「居住経験なし」の得点が高く、得点差の大きい順に、「教育・文化」（+16点）、「安全」（+14点）、「福祉・連帯」（+11点）、「健康」（+10点）、「居住環境」（+9点）、「余暇」（+7点）、「所得・消費」（+1点）である。

前回との比較では、「教育・文化」における「居住経験あり」が1点減少となった以外は、すべての領域で増加しており、とりわけ「居住環境」では「居住経験あり」「居住経験なし」とも+22点と大幅に増加している。

図表1-4-5 満足度得点（県外居住経験別・領域全般別）

（単位：点）

属性 領域	年度	県外居住経験		得点差	対前回増減	
		あり	なし		あり	なし
健康	H20	13	24	11	+ 11	+ 12
	H24	27	34	7		
	H29	39	48	9		
	R3	50	60	10 (+ 1)		
安全	H20	20	25	5	+ 3	+ 9
	H24	35	30	5		
	H29	42	50	8		
	R3	45	59	14 (+ 6)		
居住環境	H20	36	46	10	+ 22	+ 22
	H24	45	47	2		
	H29	39	48	9		
	R3	61	70	9 (± 0)		
労働	H20	29	34	5	+ 8	+ 17
	H24	37	30	7		
	H29	42	33	9		
	R3	50	50	0 (- 9)		
所得・消費	H20	-18	-17	1	+ 9	+ 19
	H24	-5	-5	0		
	H29	19	10	9		
	R3	28	29	1 (- 8)		
教育・文化	H20	6	17	11	- 1	+ 10
	H24	18	19	1		
	H29	23	28	5		
	R3	22	38	16 (+ 11)		
余暇	H20	38	43	5	+ 5	+ 18
	H24	38	38	0		
	H29	45	39	6		
	R3	50	57	7 (+ 1)		
福祉・連帯	H20	-6	3	9	+ 5	+ 2
	H24	2	3	1		
	H29	8	22	14		
	R3	13	24	11 (- 3)		

※「得点差」欄の（ ）内で、+値は前回よりも県外居住経験の「あり」「なし」間の格差が拡大、-値は縮小の傾向を示す。

エ まとめ

以上、属性別に「領域全般」の満足度得点について見てきたが、要約すると次のとおりである。

第1に、性別については、前回との比較において概ね増加しており、「男性」と「女性」の2桁以上の得点差は見られなかった。

第2に、年齢別については「18～19歳」が最上位、次いで「20代」という領域が多い一方、「40代」では最下位領域が最多となっている。

第3に、県外居住経験の有無については、「教育・文化」において「居住経験あり」の満足度得点が減少した以外はすべて前回より増加している。

5 「個別項目」の満足度

本調査における「個別項目」とは、8つの領域について、それぞれの領域を代表すると想定されるいくつかの具体的な項目のことである。たとえば、健康領域における個別項目とは、「日常医療」、「救急医療」、「検診・相談」の3つの項目をいう。以下、全県及び地域別に算出した満足度得点の結果を見ながら、その特徴を概観する。

なお、各領域全般の満足度得点については既述のとおりであるが、参考として、以下の各図表の最下欄に再掲しておく。

(1) 健康領域

健康領域における3つの個別項目の地域別満足度得点は、図表1-5-1に示すとおりである。

まず、「全県」について見ると、いずれの項目も前回より増加しており、「救急医療」は17点、「日常医療」は14点、「検診・相談」は7点増加している。

次に、各個別項目ごとに地域別で見ると、次のとおりである。

「日常医療」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡中」（89点）と最下位の「富士・東部」（44点）の開きは45点と大きく、前回（41点）からやや拡大している。前回の結果との比較では、すべての地域で増加しており、特に「峡北」（+35点）で大幅に増加したほか、「峡南」（+15点）、「峡東」（+13点）、「峡中」（+12点）、「富士・東部」（+4点）でも増加している。

「救急医療」は、最上位の「峡東」（46点）と最下位の「峡北」（-9点）の開きは55点と大きいものの、前回（60点）からは縮小している。満足度得点において地域差が確認でき、最上位の「峡東」及び「峡中」（39点）はプラスである一方、最下位の「峡北」に加え、「峡南」（-8点）、「富士・東部」（-6点）はマイナスとなっている。なお、「峡北」「峡南」「富士・東部」は過去3回の調査を含め一貫して満足度得点がマイナスとなっている。

「検診・相談」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡南」（62点）と最下位の「峡東」（37点）の開きは25点と前回（33点）から縮小している。各地域とも概ね増加し、特に「峡北」（+22点）では大幅に増加している一方、「峡東」（-10点）が減少している。

「健康領域」について概観すると、日常生活に身近である「日常医療」及び「検診・相談」については全体的に満足度水準が上昇している一方、「救急医療」では、すべての地域において満足度得点は前回から上昇しているものの、プラスの地域とマイナスの地域があるなど、地域差が表れている項目となっている。

図表1-5-1 満足度得点（地域別・健康領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
日常医療	H20	45	66	36	55	23	11
	H24	49	67	40	71	25	10
	H29	61	77	36	73	39	40
	R3	75	89	71	86	54	44
	差	14	12	35	13	15	4
救急医療	H20	-22	-10	-29	-9	-40	-43
	H24	-6	11	-35	9	-27	-30
	H29	6	27	-33	24	-18	-20
	R3	23	39	-9	46	-8	-6
	差	17	12	24	22	10	14
検診・相談	H20	26	21	28	34	44	24
	H24	35	37	40	38	47	25
	H29	41	46	18	47	51	35
	R3	48	51	40	37	62	48
	差	7	5	22	-10	11	13
健康全般	H20	18	25	21	27	19	0
	H24	31	38	23	43	26	12
	H29	43	51	23	50	41	31
	R3	55	59	48	60	58	45
	差	12	8	25	10	17	14

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(2) 安全領域

安全領域における3つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-2のとおりである。

まず、「全県」ではいずれの項目も満足度得点はプラスとなっており、前回と比較してもすべての項目で増加している。また、いずれの項目も過去3回を含めて一貫して増加している。

次に、各個別項目を地域別に見ていくと次のとおりである。

「交通安全」については、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡東」（35点）と最下位の「峡中」（13点）の開きは22点と前回（12点）から拡大している。前回と比べると「峡中」で1点減少しているほかは増加しており、特に「峡東」（+25点）、「峡南」（+14点）では2桁の増加となっている。

「防犯・防火」については、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡東」（65点）と最下位の「富士・東部」（36点）の開きは29点と前回（8点）から拡大している。前回と比べると「富士・東部」で5点減少しているほかは増加しており、特に「峡東」（+29点）、「峡南」（+22点）では2桁の増加となっている。

「自然災害」では、最上位の「峡中」（31点）と最下位の「峡南」（-7点）の開きは38点と大きいですが、前回（46点）から縮小している。前回と比べると「峡北」で1点減少し、「峡中」で変化がないほかは増加しており、特に「峡東」（+13点）では2桁の増加となっている。なお、「峡南」では、今回8点増加（前回6点増加）しているものの、過去3回を含めて一貫してマイナスとなっており、満足度得点が低い水準の地域となっている。

「安全領域」について概観すると、特に地理的条件の影響が大きい「自然災害」では、地域差が大きい状況となっている。また、前回と比較すると「交通安全」及び「防犯・防火」についても地域差が大きくなっている。

図表1-5-2 満足度得点（地域別・安全領域）

（単位：点）

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
交通安全		H20	-3	-11	-8	5	23	0
		H24	6	5	3	11	6	5
		H29	16	14	19	10	15	22
		R3	21	13	24	35	29	23
		差	5	-1	5	25	14	1
防犯・防火		H20	23	15	31	29	42	25
		H24	28	24	29	41	31	27
		H29	38	37	38	36	33	41
		R3	45	40	46	65	55	36
		差	7	3	8	29	22	-5
自然災害		H20	3	6	9	11	-14	-5
		H24	13	24	19	25	-21	-7
		H29	17	31	15	10	-15	8
		R3	21	31	14	23	-7	9
		差	4	±0	-1	13	8	1
安全全般		H20	22	22	22	31	23	17
		H24	33	37	34	40	6	26
		H29	45	50	43	39	35	44
		R3	52	54	53	52	43	48
		差	7	4	10	13	8	4

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(3) 居住環境領域

居住環境を表す要素は多種多様であるため、この領域内の個別項目は8項目あり、最も項目数の多い領域となっている。これらの地域別の満足度得点は図表1-5-3のとおりである。

まず、「全県」における各項目の満足度得点を高い順に示すと、「住宅」（85点）、「自然環境」（82点）、「ごみ・生活排水」（59点）、「大気汚染等」（48点）、「買い物」（41点）、「公園広場等」（14点）、「道路」（4点）、「公共交通機関」（-53点）となり、各項目間における得点差が顕著である。

前回調査との比較では、「公園広場等」で1点減少しているほかは、すべての項目で満足度得点は増加しており、特に「公共交通機関」（+16点）、「買い物」（+15点）では2桁の増加となっている。

過去3回の調査を含めた推移を見ると、「自然環境」「大気汚染等」「ごみ・生活排水」「住宅」「買い物」の5項目では一貫して満足度得点がプラスとなっており、特に「自然環境」「住宅」では高水準となっている。また、前回まで満足度得点がマイナスであった「道路」については、今回プラスに転じている。一方、「公共交通機関」は一貫してマイナスとなっており、不満傾向が非常に強い状況が続いている。

次に、これらの項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「自然環境」は、すべての地域で非常に高いプラスの水準となっており、最上位の「峡北」（101点）と最下位の「峡中」（78点）の開きは23点と前回（34点）から縮小している。前回との比較では、「富士・東部」で9点減少し、「峡北」で変化がないほか、すべての地域で増加しており、特に「峡東」及び「峡南」（+14点）では2桁の増加となっている。

「大気汚染等」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡南」（80点）と最下位の「峡東」（39点）の開きは41点と大きく、前回（24点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で増加しており、特に「峡南」（+26点）では2桁の増加となっている。

「公園広場等」は、最上位の「峡中」（35点）と最下位の「富士・東部」（-23点）の開きが58点と大きく、前回（47点）からさらに拡大している。前回との比較では、「峡北」で13点、「富士・東部」で7点、「峡東」で5点減少した一方、「峡中」では4点増加しており、満足度得点の増減にばらつきがある。

「ごみ・生活排水」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡南」（72点）と最下位の「峡東」（42点）の開きは30点と、前回（21点）から拡大している。前回との比較では、増加した地域と減少した地域があるが、いずれも1桁に留まっている。

「住宅」は、すべての地域で非常に高いプラスの水準となっているが、最上位の「峡北」（104点）と、最下位の「峡東」（77点）の開きは27点と前回（24点）から拡大している。前回の結果と比較すると、「峡北」で10点、「富士・東部」で9点、「峡東」で7点増加した一方、「峡南」では6点減少しており、満足度得点の増減にばらつきがある。

図表1-5-3 満足度得点（地域別・居住環境領域）

（単位：点）

項目	地域	年度	地域別					富士・東部
			全県	峡中	峡北	峡東	峡南	
自然環境		H20	59	55	61	55	72	65
		H24	72	71	75	74	52	77
		H29	81	77	101	76	67	88
		R3	82	78	101	90	81	79
		差	1	1	±0	14	14	-9
大気汚染等		H20	12	11	23	11	30	5
		H24	25	23	40	21	35	22
		H29	43	41	59	35	54	43
		R3	48	43	60	39	80	50
		差	5	2	1	4	26	7
公園広場等		H20	-3	6	-11	11	-8	-25
		H24	1	17	5	4	-18	-28
		H29	15	31	4	25	9	-16
		R3	14	35	-9	20	10	-23
		差	-1	4	-13	-5	1	-7
ごみ・生活排水		H20	33	39	37	24	19	30
		H24	44	51	44	37	42	36
		H29	56	63	54	45	66	50
		R3	59	65	49	42	72	57
		差	3	2	-5	-3	6	7
住 宅		H20	65	58	79	74	58	68
		H24	71	64	83	74	83	74
		H29	82	84	94	70	94	77
		R3	85	84	104	77	88	86
		差	3	±0	10	7	-6	9
公共交通機関		H20	-74	-70	-99	-85	-84	-63
		H24	-59	-50	-77	-58	-88	-62
		H29	-69	-63	-73	-75	-88	-68
		R3	-53	-44	-77	-49	-61	-63
		差	16	19	-4	26	27	5
道 路		H20	-10	-2	-9	-4	-19	-24
		H24	-10	2	-18	-7	-28	-26
		H29	-2	4	-18	4	3	-12
		R3	4	15	3	11	2	-21
		差	6	11	21	7	-1	-9
買 い 物		H20	19	41	-21	38	-34	-1
		H24	21	53	-21	24	-32	-10
		H29	26	47	-11	32	-17	6
		R3	41	73	11	32	-35	12
		差	15	26	22	±0	-18	6
居住環境全般		H20	41	46	37	46	15	38
		H24	46	57	27	49	26	37
		H29	54	61	55	56	38	44
		R3	65	75	56	60	52	56
		差	11	14	1	4	14	12

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

「公共交通機関」は、すべての地域で満足度得点がマイナスであり、不満傾向が強く表れている。最上位の「峡中」（-44点）と最下位の「峡北」（-77点）の開きは33点と、前回（25点）から拡大している。前回との比較では、「峡南」（+27点）、「峡東」（+26点）、「峡中」（+19点）などで大幅に増加した一方、「峡北」（-4点）では更に不満傾向が強まっている。

「道路」は、最上位の「峡中」（+15点）と最下位の「富士・東部」（-21点）の開きは36点と、前回（22点）から拡大している。前回の結果との比較では、「峡北」で+21点、「峡中」で+11点と大幅に増加した一方、「富士・東部」では9点減少しており、満足度得点の増減にばらつきがある。なお、過去3回を含めた推移を見ると、前回まで一貫して満足度得点がマイナスであった「峡北」がプラスとなったが、「富士・東部」では過去3回を含めて一貫してマイナスのままであり、地域における回答傾向の違いが明らかとなっている。

「買い物」は、最上位の「峡中」（73点）と最下位の「峡南」（-35点）の差は108点と非常に大きく、居住環境領域において最も地域差の大きい項目であり、前々回（85点）、前回（64点）からの推移を見れば、地域差は拡大している。前回の結果との比較では、最上位の「峡中」で+26点、「峡北」で+22点と大幅に増加した一方、「峡南」（-18点）ではさらに不満傾向が強まっている。過去3回を含めた推移を見ると、前回まで一貫して満足度得点がマイナスであった「峡北」がプラスとなったが、「峡南」では一貫してマイナスとなっており、地域によって回答傾向に明らかな違いがある。

「居住環境領域」について概観すると、すべての領域の各項目の中で最も高い水準にある「自然環境」や「住宅」では過去3回の調査を含めて一貫して高い満足度水準となっており、「ごみ・生活排水」といった日常生活を取り巻く環境についても比較的高水準が維持されている。

逆に「公共交通機関」では、全項目中で最低水準の満足度得点となっている。

（４）労働領域

労働領域における3つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-4のとおりである。

まず、「全県」について見ると、前回満足度得点がプラスに転じた「就職の機会」がさらに増加するなど、すべての項目がプラスとなっている。前回の結果との比較では、「就職の機会」（+18点）、「労働条件」（+20点）、「仕事のやりがい」（+13点）とすべての項目で大幅に増加している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「就職の機会」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡東」（34点）と最下位の「峡南」（1点）の開きは33点と前回（20点）から拡大している。前回との比較では、すべての地域で増加しており、特に「峡東」（+31点）、「富士・東部」（+24点）では大きく増加している。

「労働条件」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位である「峡東」（42点）と最下位の「峡北」（11点）の開きは31点と前回（29点）からやや拡大している。前回の結果と比較すると、前回マイナスであった「峡東」（+46点）や過去3年間マイナスであった「富士・東部」（+34点）が大幅に増加し、プラスに転じている。

「仕事のやりがい」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡南」（65点）と最下位の「峡中」（54点）の開きは11点と前回（19点）から縮小している。過去3回を含めた推移を見ても、全体的に「就職の機会」「労働条件」に比べて満足度得点が高くなっている。

「労働領域」について概観すると、「仕事のやりがい」は過去の調査から一貫して安定した満足度水準を維持しているほか、前回不満傾向から満足傾向に転じた「就職の機会」や「労働条件」の満足度得点大幅に増加し、「労働領域」における満足度水準は上昇傾向にあることが明らかとなった。

図表1-5-4 満足度得点（地域別・労働領域）

（単位：点）

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
就職の機会		H20	-18	-11	-16	-13	-22	-33
		H24	-12	-10	-35	-2	-2	-19
		H29	1	9	4	3	-11	-11
		R3	19	20	8	34	1	13
		差	18	11	4	31	12	24
労働条件		H20	-4	2	-20	-5	-4	-8
		H24	-2	-1	-9	2	-7	-2
		H29	7	12	12	-4	25	-2
		R3	27	22	11	42	18	32
		差	20	10	-1	46	-7	34
仕事のやりがい		H20	41	35	38	41	58	48
		H24	42	45	24	40	51	40
		H29	44	48	36	41	55	38
		R3	57	54	57	62	65	58
		差	13	6	21	21	10	20
労働全般		H20	31	27	34	31	42	36
		H24	33	34	22	36	40	33
		H29	37	44	30	31	55	28
		R3	50	45	45	58	48	56
		差	13	1	15	27	-7	28

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(5) 所得・消費領域

所得・消費領域における4つの個別項目の地域別の満足度得点は、図表1-5-5のとおりである。

「全県」では、「消費」が14点とプラスとなっているほかは、「物価」（-63点）、「資産」（-13点）、「所得」（-2点）と、全体的にマイナスとなっている項目が多い。ただし、前回と比較すると「物価」（-1点）でわずかに減少したほかは、すべての項目で増加しており、不満傾向は緩和している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「所得」は、過去3回を含めて、「峡南」を除くすべての地域でマイナスとなっている。最上位の「峡南」（3点）と最下位の「峡北」（-6点）の開きは9点と前回（25点）から大幅に縮小している。前回の結果との比較では、「峡南」（+35点）、「峡東」（+21点）など、すべての地域で増加しており、不満傾向は改善されつつある。

「資産」は、すべての地域でマイナスとなっているが、最上位の「富士・東部」（-9点）と最下位の「峡北」（-17点）の開きは8点と前回（27点）から大幅に縮小している。前回と比較すると、「峡北」を除くすべての地域で増加している。

「消費」は、最上位の「峡中」（25点）と最下位の「峡南」（-8点）の開きが33点と、前回（27点）から拡大している。前回の結果との比較では、「峡南」で変化がないほかは、増加している。

「物価」は、過去3回の調査と同様、すべての地域で大きなマイナスとなっているが、最上位の「峡中」（-56点）と最下位の「峡北」（-78点）の開きは22点と、前回（33点）から縮小している。前回の結果との比較では、「峡南」（+23点）で大幅に増加した一方、「峡北」（-26点）や「富士・東部」（-11点）で大幅に減少するなど地域によって回答傾向に明らかな違いがある。

「所得・消費領域」について概観すると、「物価」をはじめ、「所得」、「資産」といった家計の基本となる項目では、一部の地域を除き（「峡南」の「所得」（3点）は今回プラスに転じている）過去3回を含めて、すべての地域で一貫してマイナスとなるなど不満傾向が強い状況が続いているものの、前回からの推移を見れば、満足度得点は増加傾向にあることが分かる。

図表1-5-5 満足度得点（地域別・所得消費領域）

（単位：点）

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
所得		H20	-37	-37	-40	-39	-49	-33
		H24	-36	-32	-43	-40	-35	-38
		H29	-15	-11	-7	-26	-32	-11
		R3	-2	-1	-6	-5	3	-5
		差	13	10	1	21	35	6
資産		H20	-45	-45	-46	-50	-43	-42
		H24	-38	-36	-38	-41	-35	-41
		H29	-21	-16	-15	-24	-42	-24
		R3	-13	-13	-17	-14	-10	-9
		差	8	3	-2	10	32	15
消費		H20	-1	7	-4	4	-32	-8
		H24	5	14	9	13	-17	-13
		H29	6	15	-12	15	-8	-5
		R3	14	25	-1	16	-8	5
		差	8	10	11	1	±0	10
物価		H20	-153	-152	-157	-151	-160	-152
		H24	-71	-61	-65	-85	-88	-76
		H29	-62	-59	-52	-67	-85	-63
		R3	-63	-56	-78	-60	-62	-74
		差	-1	3	-26	7	23	-11
所得・消費全般		H20	-17	-14	-12	-22	-38	-16
		H24	-5	1	-14	-11	-7	-7
		H29	15	18	28	12	4	11
		R3	29	32	32	28	25	22
		差	14	14	4	16	21	11

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(6) 教育・文化領域

教育・文化領域の個別項目数は7つあり、居住環境領域に次いで項目数が多くなっている。これらの満足度得点は、図表1-5-6に示すとおりである。

まず、「全県」について見ると、満足度得点の高い順に、「幼稚園・保育所」(43点)、「文化施設」(36点)、「小中高の教育」(30点)、「文化財・伝統継承」(27点)、「家庭教育」(15点)、「生涯学習」(2点)、「高等教育の機会」(-7点)となっている。前回との比較では、「生涯学習」(-3点)及び「文化財・伝統継承」(-4点)を除き増加しており、特に「家庭教育」(+21点)、「高等教育の機会」(+15点)、「幼稚園・保育所」(+12点)で2桁増加している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「幼稚園・保育所」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡中」(53点)と最下位の「峡東」(33点)の開きは20点と前回(23点)からやや縮小している。前回の結果との比較では、すべての地域で増加しており、特に「峡南」及び「富士・東部」(+19点)、「峡中」(+11点)で2桁増加している。

「小中高の教育」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡中」(41点)と最下位の「富士・東部」(13点)の開きは28点と前回(17点)から拡大している。前回の結果との比較では、「峡中」(+17点)、「峡南」(+15点)で大幅に増加した一方、「峡北」(-15点)で大幅に減少するなど地域差が表れている。

「高等教育の機会」は、最上位の「峡中」(2点)と最下位の「峡北」(-40点)の開きは42点と前回(12点)から大幅に拡大している。ただし、前回の結果との比較では、大幅に減少した「峡北」(-19点)を除いたすべての地域で満足度得点が増加しており、過去3回の調査も含めて見ると、不満傾向は緩和している。

「家庭教育」は、最上位の「峡南」(32点)と最下位の「峡北」(-4点)の開きは36点と前回(31点)から拡大しているが、最下位の「峡北」を除くすべての地域でプラスとなっている。前回の結果との比較では、「峡東」(+29点)、「峡中」(+27点)、「峡南」(+17点)で大きく増加したほか、「富士・東部」(+12点)、「峡北」(+5点)でも増加しており、過去3回の調査も含めて見ると、不満傾向は緩和している。

「生涯学習」は、最上位である「峡中」(11点)と最下位である「富士・東部」(-12点)の開きは23点と前回(7点)から拡大している。前回の結果との比較では、「峡中」(+6点)を除くすべての地域で減少し、特に「峡南」(-20点)、「富士・東部」(-17点)で2桁減少している。

「文化施設」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡中」(56点)と最下位の「富士・東部」(4点)の開きは52点と前回(37点)から拡大している。前回の結果との比較では、「峡南」(+22点)、「峡中」(+13点)で大幅に増加した一方、「峡北」(-16点)、「峡東」(-13点)で大幅に減少するなど地域差が表れている。

「文化財・伝統継承」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡中」(36点)と最下位の「峡北」(13点)の開きは23点と前回(9点)から拡大している。前回の結果との比較では、「峡北」(-20点)、「峡東」(-17点)、「富士・東部」(-11点)で2桁減少している。

「教育・文化領域」について概観すると、教育関連では「幼稚園・保育所」「小中高の教育」など、基礎的教育関係の項目で一定の満足度水準が維持されている一方、「高等教育の機会」では不満傾向が続いている。「峡北」では「小中高の教育」「高等教育の機会」において満足度得点が前回から2桁減少しているため、今後も注目していく必要がある。なお、文化関連では、「文化施設」「文化財・伝統継承」ともに過去から安定して満足度水準がプラスに維持されている。

図表1-5-6 満足度得点（地域別・教育文化領域）

（単位：点）

項目	地域	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・東部
幼稚園・保育所		H20	35	32	38	30	9	49
		H24	30	30	14	43	28	28
		H29	31	42	31	28	19	19
		R3	43	53	35	33	38	38
		差	12	11	4	5	19	19
小中高の教育		H20	-1	-7	12	1	2	4
		H24	0	-1	-8	21	0	-9
		H29	22	24	34	18	21	17
		R3	30	41	19	27	36	13
		差	8	17	-15	9	15	-4
高等教育の機会		H20	-33	-32	-39	-27	-54	-32
		H24	-29	-28	-30	-14	-21	-42
		H29	-22	-20	-21	-20	-16	-28
		R3	-7	2	-40	-2	1	-20
		差	15	22	-19	18	17	8
家庭教育		H20	-41	-44	-34	-31	-60	-39
		H24	-29	-34	-38	-23	-37	-20
		H29	-6	-7	-9	-16	15	-2
		R3	15	20	-4	13	32	10
		差	21	27	5	29	17	12
生涯学習		H20	-3	-2	-5	-7	-5	0
		H24	-1	4	-2	7	0	-15
		H29	5	5	4	6	11	5
		R3	2	11	-1	2	-9	-12
		差	-3	6	-5	-4	-20	-17
文化施設		H20	19	31	22	30	1	-9
		H24	27	41	29	34	7	1
		H29	32	43	41	40	9	6
		R3	36	56	25	27	31	4
		差	4	13	-16	-13	22	-2
文化財・伝統継承		H20	18	9	28	23	12	30
		H24	24	25	17	28	14	23
		H29	31	28	33	37	28	31
		R3	27	36	13	20	25	20
		差	-4	8	-20	-17	-3	-11
教育・文化全般		H20	12	11	7	19	13	10
		H24	18	19	17	24	18	15
		H29	26	30	23	29	21	18
		R3	30	39	19	26	23	19
		差	4	9	-4	-3	2	1

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(7) 余暇領域

余暇領域の個別項目数は5つあり、各項目の満足度得点は、図表1-5-7に示すとおりである。

「全県」では、前回同様、「自由時間」及び「自然と親しむ機会」がプラスである一方、「余暇施設」「娯楽」「余暇情報」はマイナスとなっている。前回との比較では、「余暇情報」(−2点)を除き、すべての項目で増加し、特に「自由時間」(+19点)、「娯楽」(+13点)は2桁増加している。

次に、これらの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「自由時間」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡東」(71点)と最下位の「富士・東部」(50点)の開きは21点と前回(35点)から縮小している。前回の結果との比較では、満足度得点がすべての地域で増加し、特に「峡東」(+49点)、「峡南」(+29点)は大きく増加している。

「余暇施設」は、最上位の「峡東」(15点)と最下位の「峡北」(−27点)の開きが42点と大きく、前回(39点)からさらに拡大している。前回の結果との比較では、「峡東」(+31点)で大きく増加している一方、「峡北」では−26点と減少しており、地域における満足度得点の傾向に大きな違いがある。

「娯楽」は、すべての地域でマイナスとなっており、最上位の「峡中」及び「峡東」(−14点)と最下位の「富士・東部」(−60点)の開きは46点と大きいのが、前回(59点)からは縮小している。前回との比較では、「峡北」(−3点)はやや減少している一方、「峡東」(+39点)、「富士・東部」(+15点)、「峡南」(+12点)で大きく増加し、不満傾向は弱まっている。

「余暇情報」は、すべての地域でマイナスとなっており、最上位の「峡中」(−4点)と最下位の「富士・東部」(−30点)の開きも26点と、前回(22点)から拡大している。前回の結果との比較では、「峡北」(−16点)で大きく減少している一方、「峡中」では+2点、「峡南」では+1点増加するなど、地域における回答傾向に違いがある。

「自然と親しむ機会」は、すべての地域でプラスとなっており、最上位の「峡北」(55点)と最下位の「峡東」(35点)の開きは20点と、前回(31点)から縮小している。前回の結果との比較では、「峡中」(+15点)で大きく増加している一方、「峡北」(−11点)で2桁減少しており、満足度水準の上昇傾向に地域差が確認できる。

「余暇領域」について概観すると、「自由時間」及び「自然と親しむ機会」については安定した満足度水準となっている一方、「余暇施設」「娯楽」「余暇情報」の3つの項目は、多くの地域で不満傾向が表れており、特に「娯楽」については全県的に強い不満傾向にある。

図表1-5-7 満足度得点（地域別・余暇領域）

（単位：点）

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
自由時間	H20	41	39	40	36	40	51
	H24	35	37	43	26	24	37
	H29	39	42	57	22	38	38
	R3	58	56	65	71	67	50
	差	19	14	8	49	29	12
余暇施設	H20	-15	-4	-37	-5	-30	-30
	H24	-10	6	-26	-1	-31	-33
	H29	-4	12	-1	-16	-1	-27
	R3	-1	10	-27	15	-5	-22
	差	3	-2	-26	31	-4	5
娯楽	H20	-29	-13	-36	-20	-50	-56
	H24	-30	-11	-39	-34	-23	-64
	H29	-40	-16	-48	-53	-30	-75
	R3	-27	-14	-51	-14	-18	-60
	差	13	2	-3	39	12	15
余暇情報	H20	-14	-11	-2	-13	-27	-20
	H24	-9	-2	-7	0	-11	-31
	H29	-9	-6	0	-7	-6	-22
	R3	-11	-4	-16	-7	-5	-30
	差	-2	2	-16	±0	1	-8
自然と親しむ 機会	H20	35	30	32	35	42	44
	H24	32	33	18	36	24	35
	H29	40	36	66	38	47	35
	R3	46	51	55	35	39	42
	差	6	15	-11	-3	-8	7
余暇全般	H20	40	42	39	37	38	41
	H24	38	43	32	36	27	37
	H29	42	46	58	36	51	30
	R3	53	52	56	58	62	49
	差	11	6	-2	22	11	19

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(8) 福祉・連帯領域

最後に、福祉・連帯領域の2つの項目の満足度得点は、図表1-5-8に示すとおりである。

「全県」の得点及びその傾向を見ると、「地域とのつながり」は26点であり、過去3回の調査を含めて一貫してプラスとなっているものの、今回は減少している。また、「福祉施策」は-9点と、過去3回の調査を含めて一貫してマイナスとなっているものの、前々回、前回から増加傾向にあることから、不満傾向は緩和されている。

次に、この2つの個別項目を地域別に見ると、次のとおりである。

「地域とのつながり」は、すべての地域でプラスとなっているが、最上位の「峡南」(41点)と最下位の「峡中」(20点)の開きは21点と前回(12点)から拡大している。前回の結果との比較では、「峡中」(-13点)、「峡北」(-10点)と大きく減少している一方、「峡南」(+4点)などでは増加している。

「福祉施策」は、最上位の「峡南」(12点)と最下位の「峡北」(-24点)の開きが36点と前回(19点)から拡大している。ただし、前回の結果との比較では、すべての地域で満足度得点が増加しており、全体的に不満傾向が緩和されている。

「福祉・連帯領域」について概観すると、日常生活と密接に関係している「地域とのつながり」については、過去3回の調査で一貫してプラスの満足度水準を維持している。「福祉施策」については、過去3回の調査ですべての地域でマイナスであったが、今回「峡南」(12点)でプラスに転じるなど全体的に不満傾向が緩和されている。

図表1-5-8 満足度得点(地域別・福祉連帯領域)

(単位:点)

地域 項目	年度	全県	峡中	峡北	峡東	峡南	富士・ 東部
地域との つながり	H20	31	27	24	32	39	39
	H24	32	31	35	29	38	32
	H29	34	33	41	29	37	35
	R3	26	20	31	31	41	27
	差	-8	-13	-10	2	4	-8
福祉施策	H20	-50	-48	-70	-64	-34	-42
	H24	-33	-35	-31	-32	-19	-35
	H29	-18	-13	-31	-19	-12	-23
	R3	-9	-8	-24	-2	12	-17
	差	9	5	7	17	24	6
福祉・連帯 全 般	H20	-1	-4	-6	-14	19	6
	H24	3	1	-4	6	20	0
	H29	14	14	7	13	39	11
	R3	19	20	5	18	46	13
	差	5	6	-2	5	7	2

※「差」は平成29年度調査と令和3年度調査との得点差。

(9) 個別項目満足度のまとめ

以上、「健康」から「福祉・連帯」までの8領域における35の個別項目について、過去3回の調査の結果との比較などを含めながら、地域別に見てきた。これらを要約すると、以下のとおりである。

第1に、地域、個別項目によって異なる場合もあるが、全体的に見て、前回よりも満足度水準は上昇傾向にある。

第2に、強弱あるいは高低の差が見られるものの、すべての地域で満足度得点がプラスである項目は、「日常医療」「検診・相談」「交通安全」「防犯・防火」「自然環境」「大気汚染等」「ごみ・生活排水」「住宅」「就職の機会」「労働条件」「仕事のやりがい」「幼稚園・保育所」「小中高の教育」「文化施設」「文化財・伝統継承」「自由時間」「自然と親しむ機会」「地域とのつながり」の18項目である。前回(17項目)から増えたものに「就職の機会」「労働条件」の2項目があり、前回から減ったものに「生涯学習」がある。

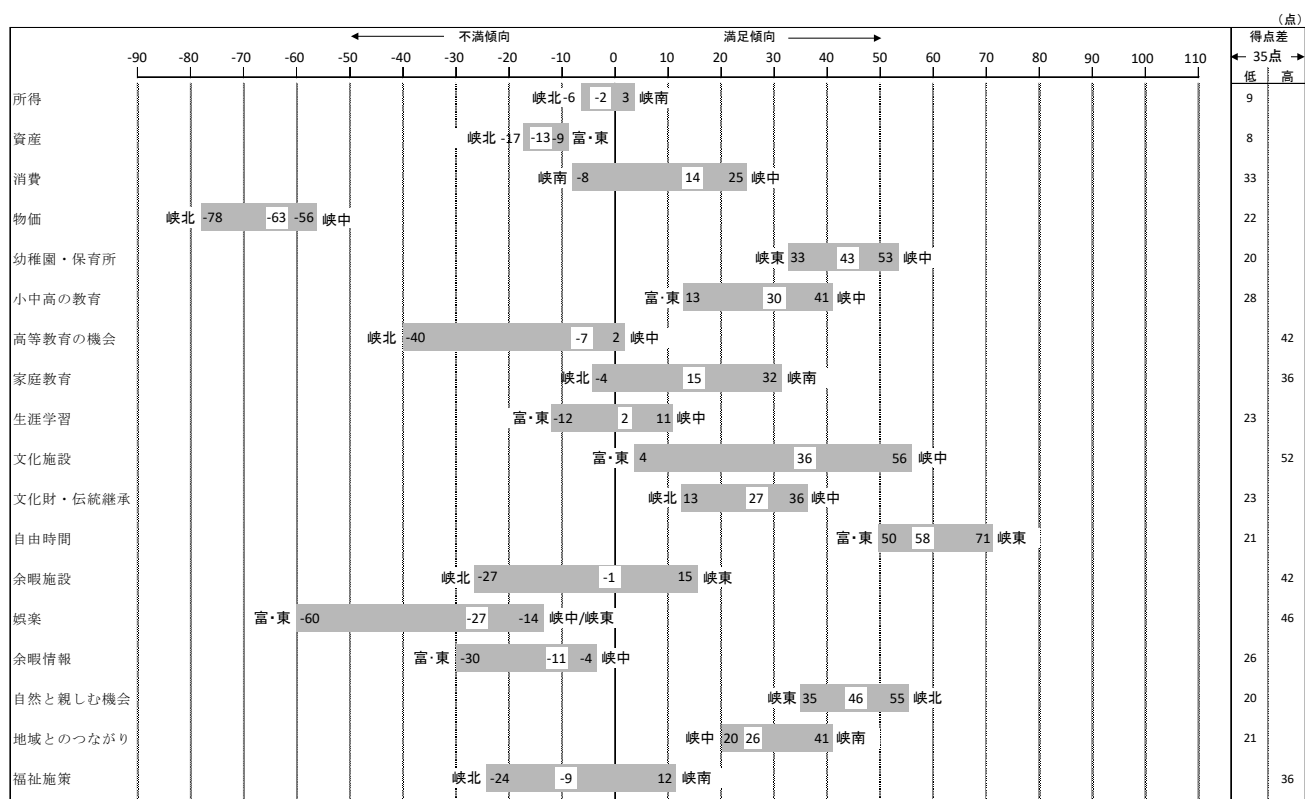
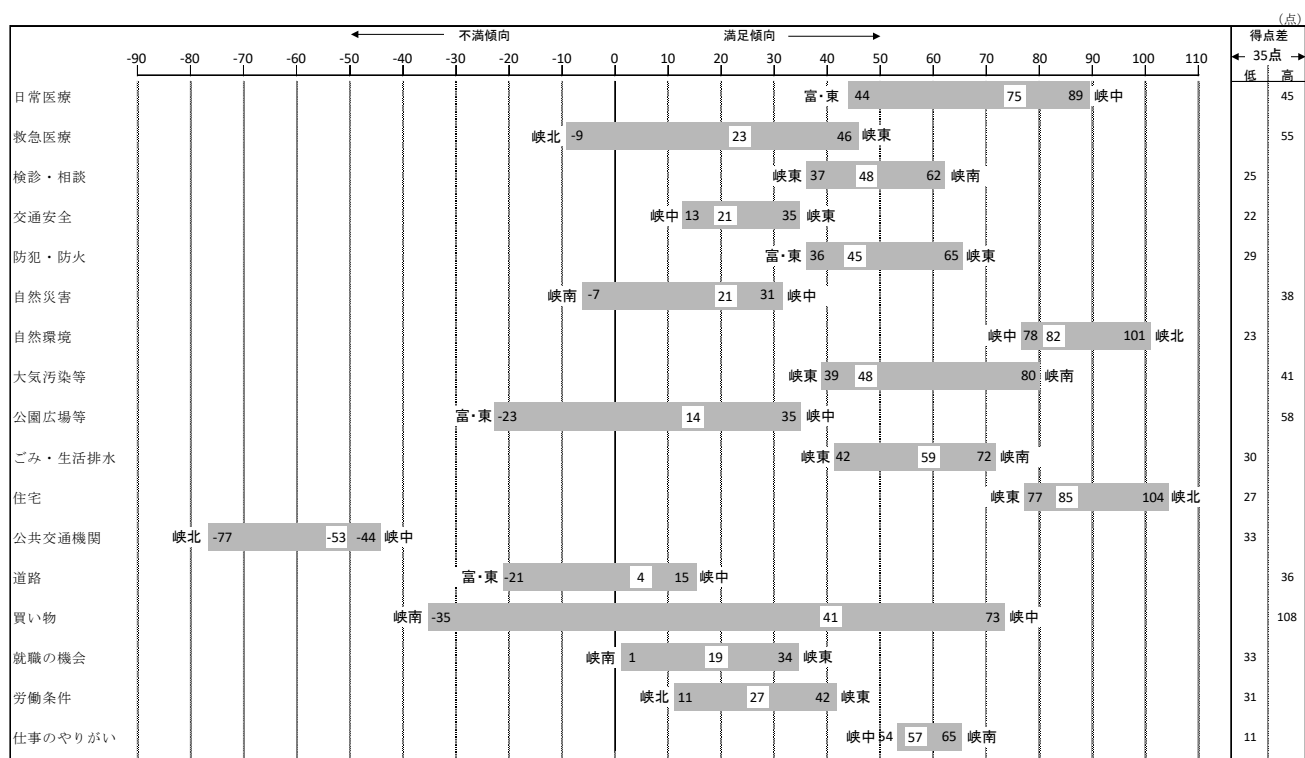
第3に、逆にどの地域においても満足度得点がマイナスである項目は、「公共交通機関」「資産」「物価」「娯楽」「余暇情報」の5項目である。前回(8項目)から減ったものに「所得」「高等教育の機会」「福祉施策」の3項目がある。

第4に、地域により満足度得点のプラスとマイナスが混在している項目は、「救急医療」「自然災害」「公園広場等」「道路」「買い物」「所得」「消費」「高等教育の機会」「家庭教育」「生涯学習」「余暇施設」「福祉施策」の12項目である。

第5に、最上位の地域と最下位の地域との開きが35点以上、つまり地域間の得点差の大きい項目は、「日常医療」「救急医療」「自然災害」「大気汚染等」「公園広場等」「道路」「買い物」「高等教育の機会」「家庭教育」「文化施設」「余暇施設」「娯楽」「福祉施策」の13項目である。前回との相違としては、「大気汚染等」「道路」「高等教育の機会」「家庭教育」「福祉施策」で新たに地域差が拡大した一方、「自由時間」の地域差が縮小している。

なお、令和3年度における各個別項目についての地域間の得点差(開き)を一括して示すと、図表1-5-9のとおりである。

図表1-5-9 個別項目の地域間の得点差



※白抜き数字は「全県」の得点。

※「富・東」は「富士・東部」の略。

※図表右上の「得点差」は最も得点の高い地域と最も得点の低い地域の得点差。左列は35点未満、右列は35点以上。

6 まとめ

本章では、今回の調査のうち、県民に生活の満足度を問う設問について、過去の調査結果との比較を交えながら回答結果の整理・分析を行ってきた。本章のまとめとして全体をさらに要約すると、次のとおりである。

第1に、「生活全般」の満足度水準は、県全体としては上昇しており、満足層の比率は前回の48.1%から5.4ポイント上昇し、53.5%となった。図表1-3-1のとおり、平成4年度に面接聴取法から留め置き法に変更して以降初めて、満足傾向は40%を超え、平成24年度から引き続き増加傾向となっている。

地域別の満足層・不満層の推移では、すべての地域で満足層が50%を超え、特に、前回調査で最下位となっていた「富士・東部」が+10.6ポイントと大幅に増加している。

満足度得点を見ると、性別では、「女性」が「男性」をわずかに3点（前回12点）上回っているが、「男性」「女性」ともに前回より得点を伸ばしている。

年齢別では、前回から調査対象に加えられた「18～19歳」で100点を超え、最も満足度得点が高く、次いで「20代」（86点）となっている。「20代」は前回から+54点と非常に大きく増加し、若者の満足度得点は明らかに高くなっている。一方、前回2番目に満足度が高かった「70歳以上」は今回唯一減少（-14点）している。これは、前回調査で満足度得点が減少した「60代」の高齢者層が「70歳以上」の高齢者層に移ってきた可能性も考えられる。また、「40代」が8領域中、5領域で最下位という結果になった。今後はこれらの層の満足度得点をいかにして上げていくかがさらなる満足度得点の向上において留意すべき点と考えられる。

職業別では、すべての職業で前回から増加し50点を超えている。特にこれまで「自営業・家族従業者」及び「その他」の得点を下回る傾向のあった「勤め人」の満足度得点が+16点と大きく増加している。

居住年数別では、「5～10年未満」を除き、増加しており、特に、「5年未満」は+40点と大きく増加している。県外居住経験別においても、「居住経験あり」「居住経験なし」の双方において満足度得点が前回から増加し、50点を超えている。

第2に、「領域全般」の満足度得点については、「全県」において8領域すべての領域で前回より増加している。特に「健康」「居住環境」「労働」「所得・消費」「余暇」では2桁増加している。

地域別では、「峡中」及び「富士・東部」においては8領域すべてで、「峡東」及び「峡南」においては7領域で増加しているほか、「峡北」においても増加領域数が減少領域数を上回るなど、地域による多少の違いはあるものの、全体的に増加傾向であることが明らかとなった。

性別では、男女ともにほぼすべての領域で前回より増加しており、とりわけ「余暇」では男女ともに2桁増加している。

年齢別では、「18～19歳」が8領域中6領域で最上位となり、「20代」も2領域で最上位、他の5領域で第2位となるなど、満足度水準の高い年齢層となった一方、「40代」は5領域で最下位となるなど、満足度水準の低い年齢層となった。

第3に、個別項目については、地域や項目によって異なる場合もあるが、前回よりも全体的に満足度水準が向上しており、すべての地域で満足度得点がプラスとなった項目は、前回より1項目増の18項目である一方、すべての地域で満足度得点がマイナスとなった項目は、前回から3項目減の5項目となった。また、地域間の得点差が相当程度大きい(35点以上)項目の数は、項目ごとに入りがあるものの、前回より4項目増の13項目であった。

これらの結果を踏まえ、満足度得点の状況、推移について考察すると、次の通りである。

「生活全般」の満足度を押し上げた要因の1つとしては、20代の満足度が著しく向上していることがあげられる。20代の領域別の満足度をみると、買い物などの「居住環境全般」で39点、就職の機会などの「労働全般」で41点、消費などの「所得・消費全般」で40点、娯楽などの「余暇全般」で66点と、前回調査から満足度得点が顕著に上がっている。「買い物」「就職の機会」「消費」「娯楽」などは、オンラインショッピングやオンライン就職をはじめとして、情報通信技術の進歩によって大きくその在り方が変化した分野である。もともと情報通信技術に触れる機会が比較的多く、その恩恵を受けやすい年齢層であるが、コロナ禍の外出自粛などにより、ここ数年でさらに情報通信技術を利用する機会が増えたことが、今回調査において満足度上昇につながったとも考えられる。

また、「個別項目」について、「救急医療」、「就職の機会」、「幼稚園・保育所」の3項目は、どの地域においても前回から満足度得点が上がっており、それぞれ施策の効果が表れていると考えられる。「救急医療」は、初期救急から三次救急までの救急医療体制の確保が図られていること、「就職の機会」は、やまなし・しごと・プラザなどの就職相談窓口による就職支援や県内企業や学校等との連携による就職機会が拡大されていること、「幼稚園・保育所」は、通常保育に加え、延長保育や一時保育など、保育需要の多様化へ対応するための様々な保育事業の促進により、良い保育環境が提供されていることなどが、満足度向上の一因と考えられる。

最後に、満足傾向の比率を全体で見ると、特に「居住環境」、「所得・消費」、「余暇」で前回調査から増加率が高くなっているが、これらの領域は、問5の「豊かさ」を問う設問において、関連する選択肢が上位の回答率となっており、いずれも豊かさの重要な条件と考えられることから、県総合計画の理念である「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて着実に前進していることがうかがえる。



コロナ禍なのに満足度が上昇したわけは？

この調査の結果、生活全般における満足度について「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した「満足層」は53.5%と、4年前（平成29年度）の前回調査から5.4ポイント上昇しました。50%を超えるのは平成13年度調査以来、20年振りのこととなります。

コロナ禍では、健康への不安が増したり、親しい人々との交流が減ったり、イベントに参加しにくくなったりして、ストレスがたまることも多いのに、どうして満足度が上昇したのでしょうか。

内閣府が実施した「満足度・生活の質に関する調査2021（2021年3月実施）」の結果では、コロナ禍の前よりも満足度の低下がみられました。これに比べても、特徴的です。

そうすると、「山梨県・県民の独自性」が理由として浮かび上がります。一つの例ですが、コロナ禍において本県の農業生産額は過去最高水準に達した、という事実。これは、コロナ禍でさえも追い風にってしまう山梨県民の頑張り・たくましさを象徴しており、それを支える前向きなマインドセットが「満足層の増加」に寄与している、と言っても良いのではないかと考えます。県の政策の力も、これを下支えしていると自負しています。

しかし、それだけが要因と考えるのは早計かもしれません。

一つの仮説としては、「コロナ禍の影響で、人々が『満足』と感じるハードルが下がっている」可能性もあります。

日々のニュースで、感染症にかかって苦しむ人々、生活に困窮する人々を目にし続けてきた結果、「健康な自分が不足不満を述べてはいけないのではないか」「自分も生活は楽ではないけれど、まあ満足すべきなのだろう」といったバイアスがかかっているかもしれないのです。

そうだとすると、コロナ禍が終息して人々の「要求水準」が元通りになった途端に、満足層が減少する、といった逆転現象が起こりえます。

県民の福祉向上を責務とする山梨県は、こうした可能性も視野に入れ、満足層が増加したからといって安心するのではなく、「品質ワンランクアップの満足度」を山梨の暮らしから得ていただけるよう、努力を続けていきます。